

大学等名	東海学園大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

全学共通科目の「データサイエンス」2単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT「データサイエンス」(1回目) ・第4次産業革命「データサイエンス」(1回目) ・Society 5.0「データサイエンス」(1回目、2回目) ・データ駆動型社会「データサイエンス」(2回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「データサイエンス」(11回目) ・AI最新技術の活用例「データサイエンス」(11回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「データサイエンス」(3回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「データサイエンス」(4回目) ・構造化データ、非構造化データ「データサイエンス」(4回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり「データサイエンス」(5回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「データサイエンス」(5回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析「データサイエンス」(6回目) ・データ可視化「データサイエンス」(6回目) ・非構造化データ処理「データサイエンス」(7回目) ・特化型AIと汎用AI「データサイエンス」(7回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル「データサイエンス」(8回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス」(9回目、10回目)

(4) 活用に当たつての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「データサイエンス」(12回目) ・個人情報保護「データサイエンス」(12回目) ・データ倫理「データサイエンス」(13回目) ・AI社会原則「データサイエンス」(13回目) ・データ・AI活用における負の事例「データサイエンス」(13回目)
	3-2	・情報セキュリティ「データサイエンス」(14回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード「データサイエンス」(14回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス」(14回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データのばらつき「データサイエンス」(7回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値「データサイエンス」(12回目) ・相関と因果「データサイエンス」(13回目) ・クロス集計表「データサイエンス」(14回目)
	2-2	・データの比較「データサイエンス」(4回目、5回目) ・データ表現「データサイエンス」(10回目、11回目)
	2-3	・データ解析ツール「データサイエンス」(2回目、3回目) ・データの集計「データサイエンス」(6回目) ・データの並び替え、ランキング「データサイエンス」(8回目、9回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、数理・データサイエンス・AIを学ぶのか、理解できる。 ・社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのか、理解できる。 ・AIの得意なところ、苦手なところを理解し、人間中心の適切な判断ができる。 ・社会の実データ、実課題を適切に読み解き、判断できる。 など、これらを日常生活、仕事等の現場に活かし、使いこなすことができる基礎的素養を身に付けることができます。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
該当なし

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和5 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 2198 人 女性 1658 人 (合計 3856 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数										
経営学部	926	230	930	5	3											5	1%
人文学部	448	100	404	9	9											9	2%
心理学部	476	100	404	23	23											23	6%
教育学部	665	170	720	1	1											1	0%
スポーツ健康科学部	924	210	1,000	0	0											0	0%
健康栄養学部	417	120	480	0	0											0	0%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	3,856	930	3,938	38	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	1%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	1%	令和6年度予定	2%	令和7年度予定	3%
令和8年度予定	4%	令和9年度予定	6%	収容定員(名)	3,938

具体的な計画

プログラム科目である「データサイエンス」は令和4年度入学生の教育課程から新設された2年次の選択科目である。開講初年度となった令和5年度は、対象年次(令和4年度入学生)しか授業できなかった。
 ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」の掲示や各学期の開始前のガイダンス機会を利用してプログラムの周知を強化し、履修率の向上を目指していく。令和6年度は2・3年次、令和7年度以降は2～4年次と受講できる学年が増えていくため、特に3・4年次に向けて積極的な履修を促していく。さらに令和7年度以降は入学生に配付する「履修の手引き」にプログラムについて掲載して、新入生に対する周知を強化する。
 また、より多くの学生を受け入れできるように、令和7年度から授業で使用する教室の見直し(教室定員の増加)、令和8年度・令和9年度に開講コマ増加(各年度1コマ増)について検討を進める。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

プログラム対象科目は全学共通科目群に属し、キャンパスごとに設定している時間割上の全学共通科目ゾーンの時間帯に開講している。全学共通科目ゾーンには各学部の卒業必修科目を配置しないように時間割編成を行い、全ての学部生が選択することができるようにしている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本学では学生の履修支援として、各学期の開始前に各学部・学年別に履修に関するガイダンスを実施し、卒業要件や履修に関する注意事項、定員設定科目についての説明を行っている。その中でプログラムの説明を行い、対象科目の開講時限の再確認を行うほか、ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」で履修登録期間前にプログラム内容と開講時間の再告知を行い、学生に履修登録を促している。
 また、プログラム科目担当教員が1年生選択科目の「情報リテラシーA・B」も担当することで、全学共通科目「情報」分野の履修系統図における次の展開科目である2年次の「データサイエンス」について直接説明し、履修を勧めることができる。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

開講初年度となった令和5年度は、学内の情報教育演習室(PC教室)で授業を行ったため、PC台数の都合上、定員設定により履修希望者を募ることとなった。今後は履修対象学年が増えていくこともあり、より多くの学生が履修できるように、普通教室での開講や開講コマの複数設置を検討していく。

学内設備面では、情報教育演習室の自由開放のほかに、ノートPC貸出しロッカーを設置しており、自主学修に利用できるようにしている。また学生ホールや学生ラウンジに充電可能なデスクを設置してBYODに対応できるようにしている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業前後に時間を設けて授業担当教員が質問等を受付けるほかに、ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」の「授業Q&A回答」機能またはMicrosoft Teamsのチャット機能を利用して、履修者は学外からも授業担当教員に質問することができ、担当教員から該当学生へのフィードバックも可能となっている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

ともいき教養教育機構	
(責任者名) 山本 伸	(役職名) ともいき教養教育機構長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	プログラム科目である「データサイエンス」は令和5年度から開講した。令和4年度入学生向けの新カリキュラム科目のため、旧カリキュラム対象学生(令和3年度以前入学生)は履修できなかった。今後は、ガイダンスや履修指導の機会において、プログラム履修の意義について学生へ周知していく必要がある。
学修成果	全学的に実施している授業評価アンケートにおいて、授業による学生自身の成果に関して「シラバスに示されている到達目標を達成できたか」、「授業内容への興味・関心が増したか」、「自分で調べ、考える姿勢が身についたか」の設問を設けて、学生に5段階で評価してもらっている。これらの設問と「授業内容はよく理解できたか」、「授業は総合的に見て満足のいくものだったか」の設問に対する評価をもとに、履修者の学修成果を把握している。また成績評価の割合から授業目標に対する達成度を把握している。今後さらに経年比較を行い、数値の変化から改善の必要性を判断していく。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	全学的に実施している授業評価アンケートにおいて、「シラバスに示されている到達目標を達成できたか」、「授業内容はよく理解できたか」の設問を設けて、学生の内容の理解度を調査している。令和5年度の評価は、いずれの項目においても5点満点中3.9点以上と高かった。また、自由記述項目においても、「実践的な内容を行った」、「スキルが身に付いた」、「将来役立つ知識が学べた」、「すぐためになる」といった高評価の回答が多かった。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	全学的に実施している授業評価アンケートにおいて、「授業内容への興味・関心が増したか」、「授業は総合的に見て満足のいくものだったか」の設問を設けて、学生の知的関心の高まりや達成感について調査している。令和5年度の評価は、いずれの項目においても5点満点中4.2点以上と高かった。後輩等他の学生への推奨度を問う項目は設定されていないため、今後は本プログラム独自の授業評価アンケートを実施し、他の学生への推奨度を調査する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	2022(令和4)年度入学生から導入された新カリキュラム科目のため、該当学年(2年次)しか履修することができず、履修者は38名にとどまった。今後はより多くの学生が履修するように、配当年次の学生のみならず、上級年次(3,4年次)に向けてもプログラムの周知を強化していく。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>キャリア開発センターにおいて、卒業予定者の就職先の調査を行い、就職内定状況を把握している。また卒業生が学位授与方針に沿った資質を持ったうえで働くことができているか把握するために、学内企業展に参加する企業に対して企業アンケートを実施している。</p> <p>2023(令和5)年度に2年次向けに開講したのが学生にとって初めてのプログラム履修機会となり、当該学生が卒業するのは2025(令和7)年度末となる。よって現時点で本プログラムを修了して卒業した学生はいない。今後、本プログラム修了者の卒業後の活躍状況や企業等の評価を把握できるように、企業アンケートを活用するなど、把握手段について検討していく。</p> <p>前述の企業アンケートにおいて、採用担当者から見た学修成果を把握するため、卒業生の業務能力の評価や大学に期待する取組みなど、企業から見た大学教育に関するアンケートを実施している。また卒業後3年及び5年が経過した卒業生を対象として、卒業後の状況に関する卒業生調査を実施している。</p> <p>教育課程全体の内部質保証のために、認証評価機関による認証評価とは別に、大学独自の自己点検評価に基づく外部評価制度を導入しており、認証評価受審後4年を超えない年限ごとに学外有識者による評価を行い、多方面にわたる意見を自己点検・評価活動に反映している。(今回は2027年までに実施予定。)さらに連携協定を結んでいる地方自治体に教育課程の評価を依頼し、意見を聴取することも視野に入れる。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>第1回目の授業での授業概要の説明と、第1回目・2回目での社会で起きている変化についての講義の中で、「学ぶことの意義」を説明し、その中で数理・データサイエンス・AIの「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」に関して説明して、学生に理解させている。</p> <p>全学的に実施している授業評価アンケートにおいて、「この授業に積極的に取り組んだか」「授業内容への興味・関心が増したか」の設問を設けて、学生の授業への取り組みについて調査している。令和5年度の評価は、いずれの項目においても5点満点中4.1点以上と高かった。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>全学的に授業評価アンケートを実施し、担当教員はアンケート結果を確認後に授業改善報告書を提出している。授業評価アンケートにおいて、「教員の説明はわかりやすいものだったか」、「授業内容はよく理解できたか」、「教材(配布資料、板書、パワーポイント、ICT機器など)の使い方は効果的だったか」、「課題は適切だったか」の設問を設けて、授業内容・授業方法に関する学生評価を調査している。</p> <p>令和5年度の評価は、いずれの項目においても5点満点中4点以上と高かった。アンケートの各項目と自由記述による学生からの意見、及び授業改善報告書をともしき教養教育機構において共有し、科目担当教員と連携して随時シラバスや授業方法の点検・改善をしながら「分かりやすい」授業を模索していく。</p>

科目名	データサイエンス	形態	L	単位数	2単位
担当者氏名	加藤 隆広	学年	2年	開講学期	2023年度春学期
DPで主に関連する項目	1、「知識・理解」-1	ナンバリング	CXX-2-22-04		
授業概要	毎回の講義は、原則として①「内容の解説」②「ディスカッション」③「グループワーク」④「パソコンを用いた実践」で構成する。このため、事前学習で指定した内容を各自が済ませていることが前提となる。特にテキストに出てくる用語に関してはよく理解し、口頭で説明できることが望ましい。 実践にあたっては、1人1台のパソコンを活用し、Excelを使って、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、実際に道具として活用することができるための基礎的素養を身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、数理・データサイエンス・AIを学ぶのか、理解する。 ・社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのか、理解する。 ・AIの得意なところ、苦手なところを理解し、人間中心の適切な判断が出来る。 ・社会の実データ、実課題を適切に読み解き、判断できる。 など、これらを日常生活、仕事等の現場に活かし、使いこなすことができる。				
授業計画					
第1回	(1) 授業ガイダンス (2) 1-1 社会で起きている変化① 事前学習として、テキスト1-1を読んで理解しておくこと (目安90分)。				
第2回	(1) 1-1 社会で起きている変化② (2) 2-3 Excelの基本的な操作方法① 事前学習として、前回の復習とともにテキスト2-1を読んで理解しておくこと (目安140分)。				
第3回	(1) 1-2 社会で活用されているデータ① (2) 2-3 Excelの基本的な操作方法② 事前学習として、前回の復習とともにテキスト1-2を読んで理解しておくこと (目安140分)。				
第4回	(1) 1-2 社会で活用されているデータ② (2) 2-2 時系列データの可視化① 事前学習として、前回の復習とともにテキスト2-2を読んで理解しておくこと (目安140分)。				
第5回	(1) 1-3 データ・AIの活用領域 (2) 2-2 時系列データの可視化② 事前学習として、前回の復習とともにテキスト1-3を読んで理解しておくこと (目安140分)。				
第6回	(1) 1-4 データ・AI利活用のための技術① (2) 2-3 平均の算出とその可視化 事前学習として、前回の復習とともにテキスト1-4を読んで理解しておくこと (目安140分)。				
第7回	(1) 1-4 データ・AI利活用のための技術② (2) 2-1 標準偏差の算出とその可視化 事前学習として、前回の復習とともにテキスト2-4を読んで理解しておくこと (目安140分)。				
第8回	(1) 1-5 データ・AI利活用の現場① (2) 2-3 大量のデータを扱う方法① 事前学習として、前回の復習とともにテキスト1-5を読んで理解しておくこと (目安140分)。				
第9回	(1) 1-5 データ・AI利活用の現場② (2) 2-3 大量のデータを扱う方法② 事前学習として、前回の復習をしておくこと (目安90分)。				
第10回	(1) 1-5 データ・AI利活用の現場③ (2) 2-2 基本統計量の算出と箱ひげ図① 事前学習として、前回の復習とともにテキスト2-6を読んで理解しておくこと (目安140分)。				
第11回	(1) 1-6 データ・AI利活用の最新動向 (2) 2-2 基本統計量の算出と箱ひげ図② 事前学習として、前回の復習とともにテキスト1-6を読んで理解しておくこと (目安140分)。				
第12回	(1) 3-1 データ・AIを扱う上での留意事項① (2) 2-1 度数分布表とヒストグラムの作成 事前学習として、前回の復習とともにテキスト3-1を読んで理解しておくこと (目安140分)。				
第13回	(1) 3-1 データ・AIを扱う上での留意事項② (2) 2-1 散布図の作成と相関係数の算出 事前学習として、前回の復習とともにテキスト2-8を読んで理解しておくこと (目安140分)。				

第14回	(1) 3-2 データを守る上での留意事項 (2) 2-1 定性データの扱い方とクロス集計 事前学習として、前回の復習とともにテキスト3-2を読んで理解しておくこと (目安140分)。			
第15回	(1) 総合演習 事前学習として、これまでの授業内容をよく復習しておくこと (目安140分)。			
実務経験を活かした授業内容	コンピューターメーカーSEとして20年間勤務。システム提案、設計、開発、プロジェクト管理に携わった経験を活かし、フィールドワークを含めたより実践的な授業を目指す。			
授業方法	パソコン教室でパソコンを1人1台使い、講義と実習併用形式で授業を実施する。 講義にあたっては、DVDの活用、グループワーク、ディスカッションを中心に行う。			
履修上の留意事項	毎回行うディスカッション、グループワークに積極的に参加できること。 テキストの内容は事前学習により理解しておくこと。特に機器なじみのないキーワードについては、口頭で説明できるよう調べておくこと。 Excelの基本機能は十分にマスターしていることを前提に授業を進める。			
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
AIデータサイエンスリテラシー入門	吉田剛志、森倉悠介、小林領、照屋健作	技術評論社	978-4-297-13042-8	発売日：2022年10月1日
参考図書				
参考URL	なし。			
評価の方法・評価基準	グループワーク等への参加 (20%)、毎回の課題 (30%)、定期試験 (50%)			

授業科目区分	授業を行う年次	1年次春学期	1年次秋学期	2年次春学期	2年次秋学期	3年次春学期	3年次秋学期
ともいき 人間教育 (10)	1	共生人間論Ⅰ(ブッダと法然) 1-10-01					
	3						共生人間論Ⅱ 3-10-03
	2			共生人間論実習 2-10-02			
ともいき 教養教育 (11)	1	持続可能な開発目標(SDGs)と共生 1-11-01					
	1		自然環境と共生※ 1-11-02				
	1	生命の科学※ 1-11-03					
	1		生物多様性と共生※ 1-11-04				
	1	現代社会と生活※ 1-11-05					
	1		地球と災害 1-11-06				
	2			脱炭素社会※ 2-11-07			
	3					森林環境保全※ 3-11-08	
	1		栄養・食生活とSDGs 1-11-09				
	1	社会福祉と共生 1-11-10					
	1	日本の文化※ 1-11-11					
	2			多文化共生 2-11-12			
	3					国際事情※ 3-11-13	
	1	憲法と基本権 1-11-14					
	2			社会生活と法※ 2-11-15			
	1		生活と化学 1-11-16				
	1		暮らしと経済 1-11-17				
	1	哲学の基礎 1-11-18					
	3						倫理学の基礎※ 3-11-19
	1	心のメカニズム 1-11-20					
	1	日本の歴史※ 1-11-21					
	1		世界の歴史※ 1-11-22				
	1	日本の文学 1-11-23					
2			外国の文学 2-11-24				
3						市民社会と政治※ 3-11-25	
ともいき 実践教育 (12)	1	地域社会と共生A 1-12-01					
	2			地域社会と共生B 2-12-02			
	2				ESDの実践と展開※ 2-12-03		
	1・2・3・4	海外文化研修A 1-12-04					
	1・2・3・4	海外文化研修B 1-12-05					
	1・2・3・4	海外文化研修C 1-12-06					
	1・2・3・4	海外文化研修D 1-12-07					
	1・2・3・4	日本文化(書道) 1-12-08					
	1・2・3・4	日本文化(陶芸) 1-12-09					
	1・2・3・4	日本文化(華道) 1-12-10					

全学共通科目群

全学共通科目群	日本語 (20)	1	日本語表現法A(音声) 1-20-01					
		1	日本語表現法B(文章) 1-20-02					
	英語 (21)	1	総合英語 I 1-21-01					
		1		総合英語 II 1-21-02				
		2			総合英語 III 2-21-03			
		1	英会話 I 1-21-04					
		1		英会話 II 1-21-05				
		2			英会話 III 2-21-06			
		2				英語ライティング 2-21-07		
		3					英語リーディング※ 3-21-08	
	3					英語ディスカッション 3-21-09		
	情報 (22)	1	情報リテラシーA 1-22-01					
		1		情報リテラシーB 1-22-02				
		1	数学の基礎 1-22-03					
		2			データサイエンス 2-22-04			
		2				プログラミング 2-22-05		
	身体教育 (23)	1	健康と運動※ 1-23-01					
		1・2・3・4	スポーツA 1-23-02					
		1・2・3・4	スポーツB 1-23-03					
		1・2・3・4	スポーツC 1-23-04					
	外国語 コミュニケーション (30)	2			中国語 I 2-30-01			
		2				中国語 II 2-30-02		
		2			韓国語 I 2-30-03			
		2				韓国語 II 2-30-04		
		2			フランス語 I 2-30-05			
		2				フランス語 II 2-30-06		
		2			ポルトガル語 I 2-30-07			
		2				ポルトガル語 II 2-30-08		
	キャリア 形成 (31)	1	キャリアデザイン I 1-31-01					
		1		キャリアデザイン II 1-31-02				
		2			キャリアデザイン III 2-31-03			
2				インターンシップ 2-31-04				
2					ボランティア活動 2-31-05			

全学共通科目 カリキュラムマップ
2022年度入学生

授業科目区分	授業科目の名称	授業を行う年次	1.「知識・理解」			2.「汎用的技能」				3.「態度・志向性」		
			1. 「共生」と「勤儉誠実」の考え方を理解し、それらに基づいた人間観や自然観、及び価値観を身に付けることができる。	2. 国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化について理解することができる。	3. 人文、社会、自然等の各分野に関連する事柄について、「持続可能な開発目標」(SDGs)をキーワードに体系的・総合的に理解することができる。	1. 日本語を用いて、的確に読み、書き、聞き、話すことができる力を身に付けることができる。	2. 国際社会において、的確にコミュニケーションを図ることができる英語等の語学力を身に付けることができる。	3. 情報通信技術を用いて、情報を入力し、分析し、活用するとともに、有益な情報を社会に発信することができる。	4. SDGsをキーワードに、人が人としてよりよく生きていくために、修得した知識を基に、自ら問題を発見し、科学的、及び総合的に問題を捉え、解決方法を見出す汎用的能力を身に付けることができる。	1. 健康づくりの習慣や、自己管理能力などの態度を身に付け、自分も誠実に最後まで取り組むことができる。	2. 社会人として責任ある態度を身に付けるとともに、様々な価値観や視点から、柔軟かつ論理的思考を基に行動することができる。	3. SDGsで掲げられている課題に対し、自らの問題として捉え、身近な所から取り組むことにより、持続可能な社会を創造する力を身に付けることができる。
人とも 間教 育 とも い き 教 養 教 育	共生人間論Ⅰ(ブッダと法然)	1	◎								○	
	共生人間論Ⅱ	3	◎								○	
	共生人間論実習	2	◎								○	
	自然環境と共生	1	◎		○			○				○
	生物多様性と共生	1	◎		○			○				○
	生命の科学	1			◎			○				○
	生活と化学	1			◎			○				○
	栄養・食生活とSDGs	1			◎			○		○		○
	地球と災害	1			◎			○				○
	脱炭素社会	2			◎			○				○
	森林環境保全	3			◎			○				○
	持続可能な開発目標(SDGs)と共生	1	◎		○			○		○		○
	暮らしと経済	1			○			◎				○
	現代社会と生活	1			○			◎				○
	社会福祉と共生	1	◎		○							○
	多文化共生	2	◎	○						○		
	市民社会と政治	3			◎			○				○
	国際事情	3	○	◎	○					○		
	憲法と基本権	1						○		◎		○
	社会生活と法	2						○		◎		○
日本の文化	1			◎								
哲学の基礎	1			○			◎				○	
倫理学の基礎	3			○			◎				○	
心のメカニズム	1			○			◎				○	
日本の歴史	1		◎	○						○		
世界の歴史	1		◎							○		
日本の文学	1	◎	○							○		
外国の文学	2	◎	○	○						○		
とも い き 実 践 教 育	地域社会と共生A	1										◎
	地域社会と共生B	2			○			○				◎
	ESDの実践と展開	2			○			○				◎
	海外文化研修A	1・2・3・4		◎			○					
	海外文化研修B	1・2・3・4		◎			○					
	海外文化研修C	1・2・3・4		◎			○					
	海外文化研修D	1・2・3・4		◎			○					
	日本文化(書道)	1・2・3・4			◎							
	日本文化(陶芸)	1・2・3・4			◎							
日本文化(華道)	1・2・3・4			◎								
日 本 語	日本語表現法A(音声)	1				◎						
	日本語表現法B(文章)	1				◎						
英 語	総合英語Ⅰ	1		○			◎					
	総合英語Ⅱ	1		○			◎					
	総合英語Ⅲ	2		○			◎					
	英会話Ⅰ	1		○			◎					
	英会話Ⅱ	1		○			◎					
	英会話Ⅲ	2		○			◎					
	英語リーディング	3		○			◎					
	英語ライティング	2		○			◎					
英語ディスカッション	3		○			◎						
情 報	情報リテラシーA	1					◎	○		○	○	
	情報リテラシーB	1					◎	○		○	○	
	数学の基礎	1					◎	○		○	○	
	データサイエンス	2					◎	○		○	○	
	プログラミング	2					◎	○		○	○	
身 体 教 育	健康と運動	1			◎			○	○	○	○	
	スポーツA	1・2・3・4			○			○	◎	○	○	
	スポーツB	1・2・3・4			○			○	◎	○	○	
	スポーツC	1・2・3・4			○			○	◎	○	○	
外 国 語 シ ョ ウ コ ン ミ ュ ニ ケ ー ケ ー	中国語Ⅰ	2		○			◎					
	中国語Ⅱ	2		○			◎					
	韓国語Ⅰ	2		○			◎					
	韓国語Ⅱ	2		○			◎					
	フランス語Ⅰ	2		○			◎					
	フランス語Ⅱ	2		○			◎					
	ポルトガル語Ⅰ	2		○			◎					
	ポルトガル語Ⅱ	2		○			◎					
キ ャ リ ア 形 成	キャリアデザインⅠ	1									◎	
	キャリアデザインⅡ	1									◎	
	キャリアデザインⅢ	2									◎	
	インターンシップ	2									◎	
	ボランティア活動	2									◎	

卒業要件

東海学園大学経営学部を卒業するためには、4年以上在学し、次の表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

▼経営学部経営学科（M122生）

科目群	授業科目区分	②各科目区分において卒業に必要な修得単位数	①各群において卒業に必要な修得単位数	③卒業に必要な修得単位数	
全学共通科目群	ともいき人間教育	必修4単位	25単位以上	合計で124単位以上	
	ともいき教養教育				
	ともいき実践教育				
	日本語				
	英語	必修6単位			
	情報	必修2単位			
	身体教育				
	外国語コミュニケーション				
キャリア形成	必修4単位				
専門科目群	基礎科目	必修8単位	12単位以上		
	基幹科目	経営			
		流通・マーケティング			
		会計			
		経済・金融			
	法律				
	展開科目	経営			
		流通・マーケティング			
		会計			
		経済・金融			
	応用科目	経営	必修4単位を含め8単位以上 ^{注1}		
		会計・金融			
		情報			
		グローバルコミュニケーション			
		スポーツ			
教職教科専門科目					
演習科目群	必修16単位	16単位以上			
免許・資格関連科目群			※卒業要件に含まれません		

注1：ビジネス教養Ⅰ・ビジネス教養Ⅱ・ビジネス教養Ⅲより4単位以上

- ①経営学部の教育課程は、全学共通科目群、専門科目群、演習科目群および免許・資格関連科目群によって構成されています。各科目群の中にはそれぞれ授業科目区分があり、さらにその区分の中に各科目が配置されています。
- ②卒業するためには、上記の表の②③すべての単位数条件を満たす必要があります。修得が必要な科目の詳細については、開講科目一覧表で確認してください。
- ③「免許・資格関連科目群」の単位は卒業要件には含まれません。

- ④ 1年間で履修登録できる単位数の上限は49単位です（「免許・資格関連科目群」は除く）。
- ⑤ 1年生のうちから卒業後の目標とする職業との関連を考慮し、チューデントスキル担当教員や演習担当教員のアドバイスをもち、きちんと履修計画を立てて履修登録をしてください。

標準修得単位数

各学年終了時までには修得することが望ましい単位数の目標は以下の通りです。

以下のものはあくまで目安ですから、この単位数に満たなくても次の学年に進むことはできます。ただし、第4学年終了時までには124単位以上が必要です。無理なく卒業できるように、各学年終了時にこの程度の単位数は修得するようにしてください。

第1学年終了時：35単位以上

第2学年終了時（2年間の合計）：70単位以上

第3学年終了時（3年間の合計）：100単位以上

第4学年終了時（4年間の合計）：最低124単位以上

* 上記の数値は各学年終了時における標準修得単位数です。この数値以上の単位修得をめざしてください。

* 卒業には、合計の単位数だけでなく、必修科目が修得されていること、各科目区分ごとに決められた単位数が満たされていることが条件になります。

（注）就職活動等で必要な卒業見込証明書は、3学年終了時に90単位以上修得している学生に限り発行されます。

開講科目一覧表

《表の見方》 「形態」欄：L = 「講義」 P = 「実験」「実習」「実技」等 S = 「演習」

▼経営学部経営学科 (M122生)

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考	
				必修	選択	自由		
全 学 共 通 科 目	人とも 間教 育 育 き	共生人間論Ⅰ(ブッダと法然)	L	1	2		} 必修4単位	
		共生人間論Ⅱ	L	3	2			
		共生人間論実習	P	2		1		
	と も い き 教 育	自然環境と共生	L	1		2		
		生物多様性と共生	L	1		2		
		生命の科学	L	1		2		
		生活と化学	L	1		2		
		栄養・食生活とSDGs	L	1		2		
		地球と災害	L	1		2		
		脱炭素社会	L	2		2		
		森林環境保全	L	3		2		
		持続可能な開発目標(SDGs)と共生	L	1		2		
		暮らしと経済	L	1		2		
		現代社会と生活	L	1		2		
		社会福祉と共生	L	1		2		
		多文化共生	L	2		2		
		市民社会と政治	L	3		2		
		国際事情	L	3		2		
		憲法と基本権	L	1		2		
		社会生活と法	L	2		2		
教 育	日本の文化	L	1		2			
	哲学の基礎	L	1		2			
	倫理学の基礎	L	3		2			
	心のメカニズム	L	1		2			
	日本の歴史	L	1		2			
	世界の歴史	L	1		2			
	日本の文学	L	1		2			
外国の文学	L	2		2				
と も い き 実 践 教 育	地域社会と共生 A	P	1		1			
	地域社会と共生 B	P	2		2			
	ESDの実践と展開	P	2		2			
	海外文化研修 A	P	1		1			
	海外文化研修 B	P	1		2			
	海外文化研修 C	P	1		4			
	海外文化研修 D	P	1		6			
	日本文化(書道)	P	1		1			
	日本文化(陶芸)	P	1		1			
日本文化(華道)	P	1		1				

授業科目 区 分	授業科目の名称	形態	開講 年次	単位数			備 考	
				必修	選択	自由		
全 学 共 通 科 目 群	日本語	日本語表現法 A (音声)	P	1		2		
		日本語表現法 B (文章)	P	1		2		
	英語	総合英語 I	L	1	1			} 必修 6 単位
		総合英語 II	L	1	1			
		総合英語 III	L	2	1			
		英会話 I	P	1	1			
		英会話 II	P	1	1			
		英会話 III	P	2	1			
		英語リーディング	P	3		1		
		英語ライティング	P	2		1		
	英語ディスカッション	P	3		1			
	情報	情報リテラシー A	P	1	1			} 必修 2 単位
		情報リテラシー B	P	1	1			
		数学の基礎	L	1		2		
		データサイエンス	L	2		2		
		プログラミング	L	2		2		
	身体教育	健康と運動	L	1		2		
		スポーツ A	P	1		1		
スポーツ B		P	1		1			
スポーツ C		P	1		1			
外国語コミュニケーション	中国語 I	P	2		1			
	中国語 II	P	2		1			
	韓国語 I	P	2		1			
	韓国語 II	P	2		1			
	フランス語 I	P	2		1			
	フランス語 II	P	2		1			
	ポルトガル語 I	P	2		1			
ポルトガル語 II	P	2		1				
キャリア形成	キャリアデザイン I	P	1	2			} 必修 4 単位	
	キャリアデザイン II	P	1	2				
	キャリアデザイン III	P	2		2			
	インターンシップ	P	2		2			
	ボランティア活動	P	2		2			

授業科目 区	授業科目の名称	形態	開講 年次	単位数			備 考		
				必修	選択	自由			
専 門 科 目	基礎 科目	経 営 学 入 門	L	1	2		} 必修 8 単位		
		会 計 学 入 門	L	1	2				
		経 済 学 入 門	L	1	2				
		経 営 学 総 論	L	1	2				
	基 幹 科 目	経 営	経 営 管 理 論	L	2		2	} 選択必修12単位以上	
			企 業 論	L	2		2		
			経 営 戦 略 論	L	3		2		
			経 営 組 織 論	L	3		2		
		流 通 マ ケ テ ィ ン グ	マ ー ケ テ ィ ン グ 論	L	2		2		
			マ ー チ ャ ン ダ イ ジ ン グ 論	L	2		2		
			マ ー ケ テ ィ ン グ リ サ ー チ	L	2		2		
			流 通 シ ス テ ム 論	L	3		2		
		会 計	簿 記 原 理	L	1		2		
			会 計 原 理	L	2		2		
			財 務 会 計 論	L	2		2		
			管 理 会 計 論	L	3		2		
		経 済 ・ 金 融	経 済 学 (国 際 経 済 を 含 む)	L	1		2		
			ミ ク ロ 経 済 学 I	L	2		2		
			ミ ク ロ 経 済 学 II	L	2		2		
			マ ク ロ 経 済 学 I	L	2		2		
法 律	マ ク ロ 経 済 学 II	L	2		2				
	民 法 I (総 則 ・ 物 権)	L	2		2				
	民 法 II (債 権)	L	2		2				
	会 社 法	L	3		2				
展 開 群 科 目	経 営	経 営 史	L	2		2			
		人 的 資 源 管 理 論	L	2		2			
		組 織 行 動 論	L	2		2			
		財 務 管 理 論	L	3		2			
		生 産 シ ス テ ム 論	L	3		2			
		経 営 情 報 論	L	2		2			
		経 営 情 報 シ ス テ ム 論	L	2		2			
		中 小 企 業 論	L	2		2			
		ベ ン チ ャ ー 企 業 論	L	2		2			
		国 際 経 営 論	L	3		2			
公 共 マ ネ ジ メ ン ト 論	L	2		2					

授業科目 区	目分	授業科目の名称	形態	開講 年次	単位数			備 考	
					必修	選択	自由		
専 門 科 群	展	流通・マーケティング	消費者問題	L	2		2		
			マーケティング戦略	L	2		2		
			販売店舗管理論	L	3		2		
			ビジネスデータ分析	P	3		2		
			広告論	L	3		2		
	開	会 計	財務諸表論 I	L	2		2		
			財務諸表論 II	L	2		2		
			工業簿記	L	2		2		
			原価計算論	L	2		2		
			会計学講義 I	L	3		2		
			会計学講義 II	L	3		2		
	目	経 済 ・ 金 融	経済政策	L	3		2		
			財政学	L	3		2		
			金融機関論	L	3		2		
			金融論	L	3		2		
	科	法 律	税法 I	L	2		2		
			税法 II	L	2		2		
			行政法	L	3		2		
			労働法	L	3		2		
	目	応 用 科 目	経 営	ビジネスベーシック I	P	1	2		
ビジネスベーシック II				P	1	2			
営			ビジネス教養 I	P	2		2	} 選択必修 4 単位 以上	
			ビジネス教養 II	P	3		2		
			ビジネス教養 III	P	3		2		
			経営診断講座 I	P	1		2		
			経営診断講座 II	P	2		2		
			経営診断講座 III	P	2		2		
			経営診断講座 IV	P	3		2		
			経営診断講座 V	P	3		2		
			経営診断講座 VI	P	4		2		
			課題探究 A	L	2		2		
			課題探究 B	L	2		2		
			課題探究 C	L	3		2		
			課題探究 D	L	3		2		
地域連携 A	P	2		1					
地域連携 B	P	2		1					
地域連携 C	P	3		1					
地域連携 D	P	3		1					

授業科目 区 分	授業科目の名称	形態	開講 年次	単位数			備 考		
				必修	選択	自由			
専 門 科 目 群	応 用 科 目	会 計 ・ 金 融	会 計 セ ミ ナ ー I	P	1		2		
			会 計 セ ミ ナ ー II	P	1		2		
			会 計 セ ミ ナ ー III	P	2		2		
			会 計 セ ミ ナ ー IV	P	2		2		
			金 融 セ ミ ナ ー I	P	2		2		
			金 融 セ ミ ナ ー II	P	2		2		
	用 目	情 報	情 報 処 理 A	P	1		2		Word 資格対策
			情 報 処 理 B	P	1		2		Excel 資格対策
			情 報 処 理 C	P	2		2		PowerPoint 資格対策
			情報ネットワーク演習	P	3		2		
	科 目	グ ロ ー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	英語コミュニケーション演習A (スピーキング)	P	2		2		
			英語コミュニケーション演習B (ライティング)	P	3		2		
			検定英語 (TOEIC) I	P	2		2		
			検定英語 (TOEIC) II	P	3		2		
			検定英語 (TOEIC) III	P	3		2		
	目 群	ス ポ ー ツ	ス ポ ー ツ 社 会 学	L	2		2		
			ス ポ ー ツ 経 営 学	L	2		2		
			スポーツマーケティング	L	3		2		
			トレーニング科学	L	2		2		
			ス ポ ー ツ 指 導 論	L	2		2		
			発 育 発 達 論	L	3		2		
			ト レ ー ニ ン グ 実 習	P	3		1		
	群	教 職 教 科 専 門 科 目	社 会 学	L	1		2		
			地 誌	L	2		2		
			法 律 学 (国際法を含む)	L	2		2		
			政 治 学 (国際政治を含む)	L	3		2		
			自 然 地 理 学	L	3		2		
人 文 地 理 学			L	3		2			

授業科目 区	授業科目の名称	形態	開講 年次	単位数			備 考
				必修	選択	自由	
演習 科目 群	スチューデントスキル	S	1	2			必修16単位
	基礎演習	S	1	2			
	総合演習Ⅰ	S	2	2			
	総合演習Ⅱ	S	2	2			
	総合演習Ⅲ	S	3	2			
	総合演習Ⅳ	S	3	2			
	総合演習Ⅴ	S	4	2			
	卒業研究	S	4	2			
	専門演習A	P	2		2		
	専門演習B	P	2		2		
	専門演習C	P	3		2		
	専門演習D	P	3		2		
	インターンシップ研究	P	2		2		
	インターンシップ実習	P	2		1		
	海外研修A	P	2		1		
海外研修B	P	2		2			
免許 ・ 資格 関 連 科 目 群	教育原理	L	1			2	
	教職概論	L	1			2	
	教育制度論	L	2			2	
	教育心理学	L	2			2	
	特別支援教育	L	2			1	
	教育課程論	L	2			2	
	道徳理論と指導法	L	3			2	
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	L	2			2	
	教育方法・技術論(ICT活用を含む)	L	2			2	
	生徒指導論(進路指導を含む)	L	3			2	
	教育相談	L	2			2	
	教育実習指導〔中・高〕	P	3~4			1	
	教育実習〔中学校〕	P	4			4	
	教育実習〔高校〕	P	4			2	
	教職実践演習〔中・高〕	P	4			2	
	社会科・公民科指導法Ⅰ	L	2			2	
	社会科・公民科指導法Ⅱ	L	2			2	
	社会科・公民科指導法Ⅲ	L	3			2	
社会科・公民科指導法Ⅳ	L	3			2		
商業科指導法Ⅰ	L	3			2		
商業科指導法Ⅱ	L	3			2		
職業指導Ⅰ	L	2			2		
職業指導Ⅱ	L	2			2		

卒業要件

東海学園大学人文学部を卒業するためには、4年以上在学し、次の表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

▼人文学部人文学科（H122生）

科目群	授業科目区分	④各科目区分において卒業に必要な修得単位数	⑤各群において卒業に必要な修得単位数	⑥卒業に必要な修得単位数
全学共通科目群	ともいき人間教育	必修4単位	25単位以上	124単位以上
	ともいき教養教育			
	ともいき実践教育	日本文化 ^注 から1単位以上		
	日本語	2単位以上		
	英語	必修6単位		
	情報			
	身体教育			
	外国語コミュニケーション			
	キャリア形成	必修4単位		
専門科目群	基礎科目			
	メディア・映像 マンガ・キャラクター 創作文芸			
	日本語・日本文学 国際・文化			
演習科目群	必修16単位			
免許・資格関連科目群	※卒業要件に含まれません。			

注：日本文化（書道）・（華道）・（陶芸）

- ① 人文学部の教育課程は、全学共通科目群、専門科目群および演習科目群によって構成されています。科目群の中にはそれぞれ授業科目区分があり、さらにその区分の中に各科目が配置されています。
- ② 卒業するためには、上の表の④⑤⑥すべての単位数条件を満たす必要があります。修得が必要な科目の詳細については、開講科目一覧表で確認してください。
- ③ 「免許・資格関連科目群」の単位は、卒業要件に含まれません。
- ④ 1年間で履修登録できる単位の上限は49単位です（「免許・資格関連科目群」の科目は除く）。

標準修得単位数

各年次終了時までには修得することが望ましい単位数の目標は以下の通りです。

次頁のものはあくまで目安ですから、この単位数に満たなくても次の年次に進むことはできます。ただし、4年次終了時までには124単位以上が必要です。無理なく卒業できるように、各年次終了時にこの程度の単位数は修得するようにしてください。

1年次終了時：35単位以上

2年次終了時（2年間の合計）：70単位以上

3年次終了時（3年間の合計）：100単位以上

4年次終了時（4年間の合計）：最低124単位以上

*上記の数値は各年次終了時における標準修得単位数です。この数値以上の単位修得をめざしてください。

*上記には免許・資格関連科目群の単位数は含まれません。

*卒業には、合計の単位数だけではなく、必修科目が修得されていること、各科目区分ごとに決められた単位数が満たされていることが条件になります。

(注) 就職活動等で必要な卒業見込証明書は、3年次終了時に90単位以上修得している学生に限り発行されます。

開講科目一覧表

《表の見方》 「形態」欄： L = 「講義」 P = 「実験」「実習」「実技」等 S = 「演習」

▼人文学部人文学科（H122生）

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
人とも教い育き	共生人間論Ⅰ(ブッダと法然)	L	1	2			} 必修4単位
	共生人間論Ⅱ	L	3	2			
	共生人間論実習	P	2		1		
全学共通科目	自然環境と共生	L	1		2		}
	生物多様性と共生	L	1		2		
	生命の科学	L	1		2		
	生活と化学	L	1		2		
	栄養・食生活とSDGs	L	1		2		
	地球と災害	L	1		2		
	脱炭素社会	L	2		2		
	森林環境保全	L	3		2		
	持続可能な開発目標(SDGs)と共生	L	1		2		
	暮らしと経済	L	1		2		
	現代社会と生活	L	1		2		
	社会福祉と共生	L	1		2		
	多文化共生	L	2		2		
	市民社会と政治	L	3		2		
	国際事情	L	3		2		
	憲法と基本権	L	1		2		
	社会生活と法	L	2		2		
	日本の文化	L	1		2		
	哲学の基礎	L	1		2		
	倫理学の基礎	L	3		2		
心のメカニズム	L	1		2			
日本の歴史	L	1		2			
世界の歴史	L	1		2			
日本の文学	L	1		2			
外国の文学	L	2		2			
ともいき実践教育	地域社会と共生 A	P	1		1		} 選択必修1単位
	地域社会と共生 B	P	2		2		
	ESDの実践と展開	P	2		2		
	海外文化研修 A	P	1・2・3・4		1		
	海外文化研修 B	P	1・2・3・4		2		
	海外文化研修 C	P	1・2・3・4		4		
	海外文化研修 D	P	1・2・3・4		6		
	日本文化(書道)	P	1・2・3・4		1		
	日本文化(陶芸)	P	1・2・3・4		1		
日本文化(華道)	P	1・2・3・4		1			
日本語	日本語表現法 A(音声)	P	1		2		} 選択必修2単位
	日本語表現法 B(文章)	P	1		2		

授業科目区分	授業科目の名称		形態	開講年次	単位数			備考
					必修	選択	自由	
全 学 共 通 科 目 群	英 語	総合英語 I	L	1	1		必修6単位	
		総合英語 II	L	1	1			
		総合英語 III	L	2	1			
		英会話 I	P	1	1			
		英会話 II	P	1	1			
		英会話 III	P	2	1			
		英語リーディング	P	3		1		
		英語ライティング	P	2		1		
		英語ディスカッション	P	3		1		
	情報	情報リテラシー A	P	1		1		
		情報リテラシー B	P	1		1		
		数学の基礎	L	1		2		
		データサイエンス	L	2		2		
	身体教育	健康と運動	L	1		2		
		スポーツ A	P	1・2・3・4		1		
		スポーツ B	P	1・2・3・4		1		
		スポーツ C	P	1・2・3・4		1		
	外国語コミュニケーション	中国語 I	P	2		1		
		中国語 II	P	2		1		
		韓国語 I	P	2		1		
		韓国語 II	P	2		1		
		フランス語 I	P	2		1		
		フランス語 II	P	2		1		
		ポルトガル語 I	P	2		1		
		ポルトガル語 II	P	2		1		
	キャリア形成	キャリアデザイン I	P	1	2		必修4単位	
		キャリアデザイン II	P	1	2			
キャリアデザイン III		P	2		2			
インターンシップ		P	2		2			
ボランティア活動		P	2		2			
基礎科目	自然科学の基礎知識	L	1		2			
	人文科学の基礎知識	L	1		2			
	社会科学の基礎知識	L	2		2			
	仕事の世界	L	2		2			
	生涯学習概論	L	2		2			
メディア・映像	メディア・リテラシー	L	1		2			
	マスコミ論	L	2		2			
	ジャーナリズム論	L	3		2			
	放送文化論	L	2		2			
	放送番組研究	L	3		2			
	映像制作 I	S	1		2			
	映像制作 II	S	2		2			
	広告文化論	L	3		2			
新聞研究	L	3		2				

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
専門科 目群	メディア・映像	出版文化論	L	1		2	
		情報と著作権	L	1		2	
		情報技術論	L	2		2	
		情報発信研究	L	3		2	
		図書館概論	L	1		2	
		学校経営と学校図書館	L	2		2	
		学習指導と学校図書館	L	2		2	
		学校図書館メディアの構成	L	3		2	
		読書と豊かな人間性	L	3		2	
		視聴覚メディア論	L	3		2	
	メディア表現論	L	4		2		
	マンガ・キャラクター	ヤングアダルト文化研究	L	1		2	
		マンガ研究	L	2		2	
		マンガ制作 A	P	1		2	
		マンガ制作 B	P	1		2	
		マンガ制作 C	P	2		2	
		マンガ制作 D	P	2		2	
		アニメーション研究 A	L	2		2	
		アニメーション研究 B	L	3		2	
		マンガ・アニメーションの歴史	L	1		2	
		キャラクター論 A	L	1		2	
		キャラクター論 B	L	2		2	
		映画研究 A	L	3		2	
		映画研究 B	L	3		2	
		イメージと社会	L	3		2	
	視覚文化論	L	4		2		
	創作芸	創作入門	L	1		2	
		詩歌創作 A	P	1		2	
		詩歌創作 B	P	1		2	
		小説創作 I	P	3		2	
		小説創作 II	P	3		2	
		シナリオ脚本創作 I	P	3		2	
		シナリオ脚本創作 II	P	3		2	
		エッセー・コラム創作	P	2		2	
		絵本研究	L	1		2	
		児童文学創作	P	2		2	
俳句創作		L	2		2		
演劇文化論		L	2		2		
言語芸術論	L	3		2			
ファンタジー論	L	4		2			
日本語・日本文学	日本語学	L	1		2		
	日本語文法（現代語）	L	1		2		
	日本語文法（古典語）	L	2		2		
	日本語史	L	2		2		
	語彙論	L	3		2		

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
専門科目	日本語・日本文学	社会言語学	L	3		2	
		日本語音声表現（アナウンス）	L	2		2	
		日本語音声表現（朗読）	L	2		2	
		文章表現論	L	3		2	
		日本語教授法	L	4		2	
		日本近代文学講読	L	1		2	
		日本近代文学史	L	2		2	
		日本近代文学研究	L	3		2	
		現代文学	L	1		2	
		ベストセラー研究	L	2		2	
		日本古典文学史	L	1		2	
		日本古典文学研究	L	2		2	
		日本古典文学講読	L	3		2	
		漢文学概論	L	1		2	
		漢文学講読	L	2		2	
		漢文学研究	L	3		2	
		書道及び書道史Ⅰ	P	3		2	
		書道及び書道史Ⅱ	P	3		2	
国際文化	英語圏・東洋文化	英語表現Ⅰ	L	1		2	
		英語表現Ⅱ	L	1		2	
		Academic EnglishⅠ	L	2		2	
		Academic EnglishⅡ	L	2		2	
		メディア英語	L	1		2	
		フランス語と文化	L	1		2	
		英語圏文化研究	L	2		2	
		アメリカ文学研究	L	3		2	
		イギリス文学研究	L	4		2	
		東洋思想	L	2		2	
		日本美術史	L	2		2	
		日本考古学	L	2		2	
		日本文化と文化財	L	3		2	
		絵画論	L	3		2	
		博物館概論	L	1		2	
		博物館情報・メディア論	L	3		2	
		民俗学	L	1		2	
		地域文化論	L	2		2	
演習科目群	演習科目	基礎演習Ⅰ	S	1	2		} 必修16単位
		基礎演習Ⅱ	S	1	2		
		基礎演習Ⅲ	S	2	2		
		基礎演習Ⅳ	S	2	2		
		専門演習Ⅰ	S	3	2		
		専門演習Ⅱ	S	3	2		
		専門演習Ⅲ	S	4	2		
専門演習Ⅳ	S	4	2				

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
免許・資格関連科目群	教育原理	L	1			2	
	教職概論	L	1			2	
	教育制度論	L	1			2	
	教育心理学	L	2			2	
	特別支援教育	L	2			1	
	教育課程論	L	2			2	
	道徳理論と指導法	L	3			2	
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	L	2			2	
	教育方法・技術論(ICT活用を含む)	L	2			2	
	生徒指導論(進路指導を含む)	L	3			2	
	教育相談	L	2			2	
	教育実習指導〔中・高〕	P	3~4			1	
	教育実習〔中学校〕	P	4			4	
	教育実習〔高校〕	P	4			2	
	教職実践演習〔中・高〕	P	4			2	
	国語科指導法Ⅰ	L	2			2	
	国語科指導法Ⅱ	L	2			2	
	国語科指導法Ⅲ	L	3			2	
	国語科指導法Ⅳ	L	3			2	
	博物館経営論	L	3			2	
	博物館資料論	L	2			2	
	博物館資料保存論	L	3			2	
	博物館展示論	L	2			2	
	博物館実習Ⅰ(見学実習)	P	3			1	
	博物館実習Ⅱ(学内実習)	P	4			1	
	博物館実習Ⅲ(館園実習)	P	4			1	
	博物館教育論	L	2			2	
	図書館制度・経営論	L	2			2	
	図書館サービス概論	L	2			2	
	情報サービス論	L	2			2	
	情報サービス演習Ⅰ	P	3			1	
	情報サービス演習Ⅱ	P	3			1	
	図書館情報資源概論	L	1			2	
情報資源組織論	L	1			2		
情報資源組織演習Ⅰ	P	2			1		
情報資源組織演習Ⅱ	P	2			1		
児童サービス論	L	2			2		
図書館サービス特論	L	3			2		
日本語教育実習	P	4			1		

卒業要件

東海学園大学心理学部を卒業するためには、4年以上在学し、次の表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

▼心理学部心理学科（P122生）

科目群	授業科目区分	④各科目区分において卒業に必要な修得単位数	⑤各群において卒業に必要な修得単位数	⑥卒業に必要な修得単位数
全学共通科目群	ともいき人間教育	必修4単位	25単位以上	合計で108単位以上
	ともいき教養教育			
	ともいき実践教育			
	日本語			
	英語	必修6単位		
	情報			
	身体教育			
	外国語コミュニケーション			
	キャリア形成	必修4単位		124単位以上
専門科目群	基礎科目			
	基幹科目	必修14単位	26単位以上	
	展開応用科目	必修2単位	30単位以上	
演習科目群		必修16単位		

- ① 心理学部の教育課程は、全学共通科目群、専門科目群および演習科目群によって構成されています。科目群の中にはそれぞれ授業科目区分があり、さらにその区分の中に各科目が配置されています。
- ② 卒業するためには、上の表の④⑤⑥すべての単位数条件を満たす必要があります。修得が必要な科目の詳細については、開講科目一覧表で確認してください。
- ③ 1年間で履修登録できる単位の上限は49単位です。

標準修得単位数

各年次終了時までには修得することが望ましい単位数の目標は以下の通りです。

以下のものはあくまで目安ですから、この単位数に満たなくても次の年次に進むことはできます。ただし、4年次終了時までには124単位以上が必要です。無理なく卒業できるように、各年次終了時にこの程度の単位数は修得するようにしてください。

- 1年次終了時：35単位以上
- 2年次終了時（2年間の合計）：70単位以上
- 3年次終了時（3年間の合計）：100単位以上
- 4年次終了時（4年間の合計）：最低124単位以上

*上記の数値は各年次終了時における標準修得単位数です。この数値以上の単位修得をめざしてください。

* 卒業には、合計の単位数だけではなく、必修科目が修得されていること、各科目区分ごとに決められた単位数が満たされていることが条件になります。

(注) 就職活動等で必要な卒業見込証明書は、3年次終了時に90単位以上修得している学生に限り発行されます。

開講科目一覧表

《表の見方》 「形態」欄： L = 「講義」 P = 「実験」「実習」「実技」等 S = 「演習」

▼心理学部心理学科 (P122生)

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
人とも教い育き	共生人間論Ⅰ(ブッダと法然)	L	1	2			} 必修4単位
	共生人間論Ⅱ	L	3	2			
	共生人間論実習	P	2		1		
全学共通科目	自然環境と共生	L	1		2		
	生物多様性と共生	L	1		2		
	生命の科学	L	1		2		
	生活と化学	L	1		2		
	栄養・食生活とSDGs	L	1		2		
	地球と災害	L	1		2		
	脱炭素社会	L	2		2		
	森林環境保全	L	3		2		
	持続可能な開発目標(SDGs)と共生	L	1		2		
	暮らしと経済	L	1		2		
	現代社会と生活	L	1		2		
	社会福祉と共生	L	1		2		
	多文化共生	L	2		2		
	市民社会と政治	L	3		2		
	国際事情	L	3		2		
	憲法と基本権	L	1		2		
	社会生活と法	L	2		2		
	日本の文化	L	1		2		
	哲学の基礎	L	1		2		
	倫理学の基礎	L	3		2		
心のメカニズム	L	1		2			
日本の歴史	L	1		2			
世界の歴史	L	1		2			
日本の文学	L	1		2			
外国の文学	L	2		2			
ともいき実践教育	地域社会と共生 A	P	1		1		
	地域社会と共生 B	P	2		2		
	ESDの実践と展開	P	2		2		
	海外文化研修 A	P	1・2・3・4		1		
	海外文化研修 B	P	1・2・3・4		2		
	海外文化研修 C	P	1・2・3・4		4		
	海外文化研修 D	P	1・2・3・4		6		
	日本文化(書道)	P	1・2・3・4		1		
	日本文化(陶芸)	P	1・2・3・4		1		
日本文化(華道)	P	1・2・3・4		1			
日本語	日本語表現法 A(音声)	P	1		2		
	日本語表現法 B(文章)	P	1		2		

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
全学共通科目群	英語	総合英語Ⅰ	L	1	1		必修6単位
		総合英語Ⅱ	L	1	1		
		総合英語Ⅲ	L	2	1		
		英会話Ⅰ	P	1	1		
		英会話Ⅱ	P	1	1		
		英会話Ⅲ	P	2	1		
		英語リーディング	P	3		1	
		英語ライティング	P	2		1	
		英語ディスカッション	P	3		1	
	情報	情報リテラシーA	P	1		1	
		情報リテラシーB	P	1		1	
		数学の基礎	L	1		2	
		データサイエンス	L	2		2	
	身体教育	プログラミング	L	2		2	
		健康と運動	L	1		2	
		スポーツA	P	1・2・3・4		1	
		スポーツB	P	1・2・3・4		1	
	外国語コミュニケーション	スポーツC	P	1・2・3・4		1	
		中国語Ⅰ	P	2		1	
			中国語Ⅱ	P	2		1
		韓国語Ⅰ	P	2		1	
			韓国語Ⅱ	P	2		1
		フランス語Ⅰ	P	2		1	
			フランス語Ⅱ	P	2		1
		ポルトガル語Ⅰ	P	2		1	
	ポルトガル語Ⅱ		P	2		1	
キャリア形成	キャリアデザインⅠ	P	1	2		必修4単位	
	キャリアデザインⅡ	P	1	2			
	キャリアデザインⅢ	P	2		2		
	インターンシップ	P	2		2		
	ボランティア活動	P	2		2		
基礎科目	自然科学の基礎知識	L	1		2		
	人文科学の基礎知識	L	1		2		
	社会科学の基礎知識	L	2		2		
	仕事の世界	L	2		2		
	生涯学習概論	L	2		2		
基礎科目	心理学概論	L	1	2		必修14単位を含め 26単位以上	
	心理学研究法	L	1		2		
	心理学実験Ⅰ	P	2	2			
	心理学実験Ⅱ	P	2	2			
	実験心理学	L	2		2		
	知覚・認知心理学(知覚心理学)	L	2	2			
	知覚・認知心理学(認知心理学)	L	2		2		
	発達心理学	L	1	2			
教育・学校心理学(教育心理学)	L	2		2			

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
専門	基幹科目	臨床心理学概論	L	1		2	
		感情・人格心理学(人格心理学)	L	1		2	
		感情・人格心理学(感情心理学)	L	2		2	
		社会・集団・家族心理学(社会・集団心理学)	L	1	2		
		対人認知論	L	1		2	
		適応の心理学	L	3		2	
		学習・言語心理学	L	3		2	
		神経・生理心理学	L	3		2	
		公認心理師の職責	L	4		2	
		比較文化論	L	1		2	
		心理学統計法Ⅰ	L	1	2		
		心理学統計法Ⅱ	L	2		2	
		心理学統計法Ⅲ	L	2		2	
		心理学英文講読Ⅰ	L	1		2	
心理学英文講読Ⅱ	L	1		2			
専門	展開科目	コミュニケーション心理学	L	1		2	
		心理測定法	L	3		2	
		動物心理学	L	4		2	
		色彩心理学	L	4		2	
		教育・学校心理学(学校心理学)	L	2		2	
		障害者・障害児心理学	L	2		2	
		社会・集団・家族心理学(家族心理学)	L	3		2	
		産業・組織心理学	L	2		2	
		環境心理学	L	3		2	
		応用心理学	L	3		2	
		文化心理学	L	4		2	
		心理的アセスメント	S	2		2	
		精神疾患とその治療	L	3		2	
		健康・医療心理学	L	3		2	
		福祉心理学	L	2		2	
		心理学的支援法	L	3		2	
		司法・犯罪心理学	L	3		2	
		調査法Ⅰ	L	2	2		
		調査法Ⅱ	P	2		2	
		行動観察法	P	3		2	
		面接法	P	3		2	
		社会調査論	L	1		2	
		調査演習Ⅰ	S	3		2	
		調査演習Ⅱ	S	3		2	
		ことばと認知	L	3		2	
		論理と認知	L	4		2	
人体の構造と機能及び疾病	L	3		2			
関係行政論	L	3		2			
心理演習	S	4		2			
心理実習	P	4		2			

必修2単位を含め
30単位以上

授業科目区分		授業科目の名称				形態	開講年次	単位数			備考
								必修	選択	自由	
演習科目群	演習科目	基礎演習 I	S	1	2				} 必修 16 単位		
		基礎演習 II	S	1	2						
		基礎演習 III	S	2	2						
		基礎演習 IV	S	2	2						
		総合演習 I	S	3	2						
		総合演習 II	S	3	2						
		総合演習 III	S	4	2						
総合演習 IV	S	4	2								

卒業要件

東海学園大学教育学部を卒業するためには、4年以上在学し、次の表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

▼教育学部教育学科（E322・E422・E222）

科目群	授業科目区分	①各科目区分において卒業に必要な修得単位数	②各群において卒業に必要な修得単位数	③卒業に必要な修得単位数
全学共通科目群	ともいき人間教育	必修4単位	25単位以上	128単位以上
	ともいき教養教育			
	ともいき実践教育			
	日 本 語			
	英 語	必修6単位		
	情 報			
	身 体 教 育			
	外国語コミュニケーション			
キャリア形成	必修4単位			
専門科目群	基 幹 科 目	4単位以上 ^注	58単位以上	
	展 開 応 用 科 目	54単位以上		
演 習 科 目 群	必修16単位			
免許・資格関連科目群	※卒業要件に含まれません。			

注：教育原理と保育原理いずれかの2単位を含む。

- ① 教育学部の教育課程は、全学共通科目群、専門科目群および演習科目群によって構成されています。科目群の中にはそれぞれ授業科目区分があり、さらにその区分の中に各科目が配置されています。
- ② 卒業するためには、上の表の①②③すべての単位数条件を満たす必要があります。修得が必要な科目の詳細については、開講科目一覧表で確認してください。
- ③ 「免許・資格関連科目」の単位は、卒業要件に含まれません。
- ④ 1年間で履修登録できる単位の上限は49単位です。（「免許・資格関連科目群」の科目は除く）

標準修得単位数

各年次終了時までには修得することが望ましい単位数の目標は以下の通りです。

以下のものはあくまで目安ですから、この単位数に満たなくても次の年次に進むことはできます。ただし、4年次終了時までには128単位以上が必要です。無理なく卒業できるように、各年次終了時にこの程度の単位数は修得するようにしてください。

- 1年次終了時：40単位以上
- 2年次終了時（2年間の合計）：80単位以上
- 3年次終了時（3年間の合計）：110単位以上

4年次終了時（4年間の合計）：最低128単位以上

- * 上記の数値は各年次終了時における標準修得単位数です。この数値以上の単位修得をめざしてください。
 - * 上記には免許・資格関連科目群の単位数は含まれません。
 - * 卒業には、合計の単位数だけではなく、必修科目が修得されていること、各科目区分ごとに決められた単位数が満たされていることが条件になります。
- (注) 就職活動等で必要な卒業見込証明書は、3年次終了時に90単位以上修得している学生に限り発行されます。

開講科目一覧表

《表の見方》 「形態」欄：L = 「講義」 P = 「実験」「実習」「実技」等 S = 「演習」

▼教育学部教育学科（学校教育専攻）（E322生）

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
人とも教い育き	共生人間論Ⅰ（ブッダと法然）	L	1	2			} 必修4単位
	共生人間論Ⅱ	L	3	2			
	共生人間論実習	P	2		1		
全学共通科目	自然環境と共生	L	1		2		
	生物多様性と共生	L	1		2		
	生命の科学	L	1		2		
	生活と化学	L	1		2		
	栄養・食生活とSDGs	L	1		2		
	地球と災害	L	1		2		
	脱炭素社会	L	2		2		
	森林環境保全	L	3		2		
	持続可能な開発目標(SDGs)と共生	L	1		2		
	暮らしと経済	L	1		2		
	現代社会と生活	L	1		2		
	社会福祉と共生	L	1		2		
	多文化共生	L	2		2		
	市民社会と政治	L	3		2		
	国際事情	L	3		2		
	憲法と基本権	L	1		2		
	社会生活と法	L	2		2		
	日本の文化	L	1		2		
	哲学の基礎	L	1		2		
	倫理学の基礎	L	3		2		
心のメカニズム	L	1		2			
日本の歴史	L	1		2			
世界の歴史	L	1		2			
日本の文学	L	1		2			
外国の文学	L	2		2			
ともいき実践教育	地域社会と共生 A	P	1		1		
	地域社会と共生 B	P	2		2		
	ESDの実践と展開	P	2		2		
	海外文化研修 A	P	1・2・3・4		1		
	海外文化研修 B	P	1・2・3・4		2		
	海外文化研修 C	P	1・2・3・4		4		
	海外文化研修 D	P	1・2・3・4		6		
	日本文化（書道）	P	1・2・3・4		1		
	日本文化（陶芸）	P	1・2・3・4		1		
日本文化（華道）	P	1・2・3・4		1			
日本語	日本語表現法 A（音声）	P	1		2		
	日本語表現法 B（文章）	P	1		2		

は非開講科目です。

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
全 学 共 通 科 目 群	英 語	総合英 語 I L	1	1		必修6単位	
		総合英 語 II L	1	1			
		総合英 語 III L	2	1			
		英 会 話 I P	1	1			
		英 会 話 II P	1	1			
		英 会 話 III P	2	1			
		英語リーディング P	3		1		
		英語ライティング P	2		1		
		英語ディスカッション P	3		1		
	情 報	情報リテラシー A P	1		1		
		情報リテラシー B P	1		1		
		数 学 の 基 礎 L	1		2		
		データサイエンス L	2		2		
	身 体 教 育	健康と運動 L	1		2		
		スポーツ A P	1・2・3・4		1		
		スポーツ B P	1・2・3・4		1		
	外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	中国語 I P	2		1		
		中国語 II P	2		1		
		韓国語 I P	2		1		
		韓国語 II P	2		1		
		フランス語 I P	2		1		
		フランス語 II P	2		1		
		ポルトガル語 I P	2		1		
		ポルトガル語 II P	2		1		
	キ ャ リ ア 形 成	キャリアデザイン I P	1	2			必修4単位
		キャリアデザイン II P	1	2			
		キャリアデザイン III P	2		2		
インターンシップ P		2		2			
ボランティア活動 P		2		2			
基 幹 科 目	教 育 原 理 L	1		2		選択必修 2単位以上 4単位 以上	
	保 育 原 理 L	1		2			
	教 職 概 論 L	1		2			
	教 育 制 度 論 L	1		2			
	養 護 概 説 論 L						
	保 育 者 論 L						
展 開 応 用 科 目 群	こ こ ろ の 理 解 と 援 助 の 分 野	教 育 心 理 学 L	2		2		
		保 育 の 心 理 学 L					
		子ども家庭支援の心理学 L					
		子ども理解 L	3		2		
		子どもの理解と援助 S					
		精 神 保 健 L					
		健康相談活動の理論及び方法 L					
		教 育 相 談 L	3		2		

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考	
				必修	選択	自由		
専門科目群	健康教育・保健の分野	健康教育学	L					
		学校医学概論	L					
		生理学	L					
		解剖学	L					
		栄養学(食品学を含む)	L					
		衛生学	L					
		公衆衛生学(予防医学を含む)	L					
		公衆衛生学演習	S					
		微生物学(免疫学を含む)	L					
		薬理概論	L					
		看護学	L					
		母子看護学	L					
		学校保健	L					
		養護実務演習	P					
		保健統計学	L					
		救急処置法	L					
		子どもの保健Ⅰ	L					
		子どもの保健	L					
		子どもの健康と安全	S					
		子ども体育Ⅰ	S	1		2		
		子ども体育Ⅱ	S	2		2		
		子どもの食と栄養	S					
		保健科指導法Ⅰ	L					
		保健科指導法Ⅱ	L					
		保健科指導法Ⅲ	L					
		保健科指導法Ⅳ	L					
		英語教育の分野	英語学概論	L	2		2	
			英語の構造	L	3		2	
英語文学概論	L		3		2			
英語文学研究	L		4		2			
リスニング	L		1		2			
スピーキング	L		1		2			
ライティング	L		2		2			
リーディングⅠ(精読)	P		1		2			
リーディングⅡ(多読)	P		1		2			
リスニング&リーディング	P		1		2			
プレゼンテーション	P		4		2			
異文化コミュニケーション	L		3		2			
英語圏文化研究	L		1		2			
英語科指導法Ⅰ	L		2		2			
英語科指導法Ⅱ	L	2		2				
英語科指導法Ⅲ	L	3		2				
英語科指導法Ⅳ	L	3		2				
社会と福祉の分野	社会福祉論	L						
	子ども家庭福祉	L						
	子ども家庭支援論	L						

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
専門科目群	社会と福祉分野	子育て支援	S				
		社会的養護Ⅰ	L				
		社会的養護Ⅱ	S				
	表現の分野	音楽Ⅰ	S	1		2	
		音楽Ⅱ	S	1		1	
		音楽Ⅲ	S	2		1	
		音楽Ⅳ	S	2		1	
		音楽Ⅴ	S	3		1	
		音楽Ⅵ	S	3		1	
		図画工作Ⅰ	S	2		2	
	図画工作Ⅱ	S	2		2		
	保育の分野	保育内容総論	S	1		2	
		保育内容(健康)	S	1		2	
		保育内容(人間関係)	S	1		2	
		保育内容(環境)	S	1		2	
		保育内容(言葉)	S	1		2	
		保育内容(表現)	S	2		2	
		保育課程論	L	2		2	
		乳児保育Ⅰ	L				
		乳児保育Ⅱ	S				
	教育内容の分野	障がい児保育	S				
		保育環境論	L	3		2	
		国語科研究(書写を含む)	L	2		2	
		社会科研究	L	1		2	
		算数科研究	L	2		2	
		理科研究	L	2		2	
		生活科研究	L	2		2	
		家庭科研究	L	2		2	
	教育方法の分野	体育科研究	L	2		2	
		小学校英語	L	3		2	
		特別支援教育	L	2		1	
		教育課程論	L	2		2	
		道徳理論と指導法	L	3		2	
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	L	3		2	
		教育方法・技術論(ICT活用を含む)	L	2		2	
		生徒指導論(進路指導を含む)	L	3		2	
		生徒指導論	L				
		幼児教育指導法	L	3		2	
		国語科指導法Ⅰ	L	3		2	
		国語科指導法Ⅱ	L	3		2	
		社会科指導法	L	2		2	
		算数科指導法Ⅰ	L	3		2	
算数科指導法Ⅱ		L	3		2		
理科指導法	L	2		2			
生活科指導法	L	2		2			
音楽科指導法	L	3		2			

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
専門科目群	教育方法の分野	図画工作科指導法	L	3		2	
		家庭科指導法	L	3		2	
		体育科指導法	L	3		2	
		外国語(英語)指導法	L	3		2	
	展 開 実 応 用 の 科 目 野	保育実習Ⅰ	P				
		保育実習Ⅱ(保育所)	P				
		保育実習Ⅲ(施設)	P				
		保育実習指導Ⅰ	P				
		保育実習指導Ⅱ(保育所)	P				
		保育実習指導Ⅲ(施設)	P				
		保育・教職実践演習〔幼稚園〕	P				
		教育実習〔幼・小〕	P	3~4		4	
		教育実習指導〔幼・小〕	P	3~4		1	
		教職実践演習〔幼・小〕	P	4		2	
		教育実習〔中学校〕	P	4		4	
		教育実習〔高校〕	P	4		2	
		教育実習指導〔中・高〕	P	3~4		1	
		教職実践演習〔中・高〕	P	4		2	
		養護実習	P				
		養護実習指導	P				
教職実践演習〔養護教諭〕	P						
看護学実習	P						
学校救急処置実習	P						
臨床実習	P						
演習科目群	演習科目目	基礎演習Ⅰ	S	1	2		必修16単位
		基礎演習Ⅱ	S	1	2		
		基礎演習Ⅲ	S	2	2		
		基礎演習Ⅳ	S	2	2		
		専門演習Ⅰ	S	3	2		
		専門演習Ⅱ	S	3	2		
		専門演習Ⅲ	S	4	2		
		専門演習Ⅳ	S	4	2		
		保育学特別演習	S				
		保育フィールド演習	S				
		教育学特別演習	S	1	1		
		教育キャリア演習Ⅰ	S	1	1		
		教育キャリア演習Ⅱ	S	2	1		
		教育キャリア演習Ⅲ	S	2	1		
		教育キャリア演習Ⅳ	S	3	1		
		教育キャリア演習Ⅴ	S	3	1		
教育キャリア演習Ⅵ	S	4	1				
関連科目群	免許・資格	学校経営と学校図書館	L	2		2	
		学校図書館メディアの構成	L	3		2	
		学習指導と学校図書館	L	2		2	
		読書と豊かな人間性	L	3		2	
		視聴覚メディア論	L	3		2	

開講科目一覧表

《表の見方》 「形態」欄：L = 「講義」 P = 「実験」「実習」「実技」等 S = 「演習」

▼教育学部教育学科（保育専攻）（E422生）

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
人とも教い育き	共生人間論Ⅰ（ブッダと法然）	L	1	2			} 必修4単位
	共生人間論Ⅱ	L	3	2			
	共生人間論実習	P	2		1		
全学共通科目	自然環境と共生	L	1		2		
	生物多様性と共生	L	1		2		
	生命の科学	L	1		2		
	生活と化学	L	1		2		
	栄養・食生活とSDGs	L	1		2		
	地球と災害	L	1		2		
	脱炭素社会	L	2		2		
	森林環境保全	L	3		2		
	持続可能な開発目標(SDGs)と共生	L	1		2		
	暮らしと経済	L	1		2		
	現代社会と生活	L	1		2		
	社会福祉と共生	L	1		2		
	多文化共生	L	2		2		
	市民社会と政治	L	3		2		
	国際事情	L	3		2		
	憲法と基本権	L	1		2		
	社会生活と法	L	2		2		
	日本の文化	L	1		2		
	哲学の基礎	L	1		2		
	倫理学の基礎	L	3		2		
心のメカニズム	L	1		2			
日本の歴史	L	1		2			
世界の歴史	L	1		2			
日本の文学	L	1		2			
外国の文学	L	2		2			
ともいき実践教育	地域社会と共生 A	P	1		1		
	地域社会と共生 B	P	2		2		
	ESDの実践と展開	P	2		2		
	海外文化研修 A	P	1・2・3・4		1		
	海外文化研修 B	P	1・2・3・4		2		
	海外文化研修 C	P	1・2・3・4		4		
	海外文化研修 D	P	1・2・3・4		6		
	日本文化（書道）	P	1・2・3・4		1		
	日本文化（陶芸）	P	1・2・3・4		1		
日本文化（華道）	P	1・2・3・4		1			
日本語	日本語表現法 A（音声）	P	1		2		
	日本語表現法 B（文章）	P	1		2		

は非開講科目です。

授業科目区分	授業科目の名称		形態	開講年次	単位数			備考
					必修	選択	自由	
全 学 共 通 科 目 群	英 語	総合英語 I	L	1	1		必修6単位	
		総合英語 II	L	1	1			
		総合英語 III	L	2	1			
		英会話 I	P	1	1			
		英会話 II	P	1	1			
		英会話 III	P	2	1			
		英語リーディング	P	3		1		
		英語ライティング	P	2		1		
		英語ディスカッション	P	3		1		
	情 報	情報リテラシー A	P	1		1		
		情報リテラシー B	P	1		1		
		数学の基礎	L	1		2		
		データサイエンス	L	2		2		
	身 体 教 育	健康と運動	L	1		2		
		スポーツ A	P	1・2・3・4		1		
		スポーツ B	P	1・2・3・4		1		
	外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	中国語 I	P	2		1		
		中国語 II	P	2		1		
		韓国語 I	P	2		1		
		韓国語 II	P	2		1		
		フランス語 I	P	2		1		
		フランス語 II	P	2		1		
		ポルトガル語 I	P	2		1		
		ポルトガル語 II	P	2		1		
	キ ャ リ ア 形 成	キャリアデザイン I	P	1	2			必修4単位
		キャリアデザイン II	P	1	2			
		キャリアデザイン III	P	2		2		
インターンシップ		P	2		2			
ボランティア活動		P	2		2			
基 幹 科 目	教育原理	L	1		2		選択必修 2単位以上	
	保育原理	L	1		2			
	教職概論	L	1		2			
	教育制度論	L	1		2			
	養護概説	L						
	保育者論	L	1		2			
展 開 応 用 科 目 群	こころの理解と援助の分野	教育心理学	L	2		2	4単位 以上	
	保育の心理学	L	2		2			
	子ども家庭支援の心理学	L	2		2			
	子どもも理解	L	3		2			
	子どもの理解と援助	S	3		1			
	精神保健	L						
	健康相談活動の理論及び方法	L						
	教育相談	L	3		2			

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考	
				必修	選択	自由		
専門科目群	健康教育 ・ 保健 の分野 の 用 目	健康教育学	L					
		学校医学概論	L					
		生理学	L					
		解剖学	L					
		栄養学(食品学を含む)	L					
		衛生学	L					
		公衆衛生学(予防医学を含む)	L					
		公衆衛生学演習	S					
		微生物学(免疫学を含む)	L					
		薬理概論	L					
		看護学	L					
		母子看護学	L					
		学校保健	L					
		養護実務演習	P					
		保健統計学	L					
		救急処置法	L					
		子どもの保健 I	L					
		子どもの保健	L	3		2		
		子どもの健康と安全	S	3		1		
		子ども体育 I	S	1		2		
		子ども体育 II	S	2		2		
		子どもの食と栄養	S	2		2		
		保健科指導法 I	L					
		保健科指導法 II	L					
		保健科指導法 III	L					
		保健科指導法 IV	L					
		英語教育 の分野	英語学概論	L				
			英語の構造	L				
			英語文学概論	L				
英語文学研究	L							
リスニング	L							
スピーキング	L							
ライティング	L							
リーディング I (精読)	P							
リーディング II (多読)	P							
リスニング&リーディング	P							
プレゼンテーション	P							
異文化コミュニケーション	L		3		2			
英語圏文化研究	L							
英語科指導法 I	L							
英語科指導法 II	L							
英語科指導法 III	L							
英語科指導法 IV	L							
社会と福祉の分野	社会福祉論	L	3		2			
	子ども家庭福祉	L	2		2			
	子ども家庭支援論	L	3		2			

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
社会と福祉分野	子育て支援	S	3		1		
	社会的養護 I	L	2		2		
	社会的養護 II	S	3		1		
表現の分野	音楽 I	S	1		2		
	音楽 II	S	1		1		
	音楽 III	S	2		1		
	音楽 IV	S	2		1		
	音楽 V	S	3		1		
	音楽 VI	S	3		1		
	図画工作 I	S	2		2		
図画工作 II	S	2		2			
保育の分野	保育内容総論	S	1		2		
	保育内容(健康)	S	1		2		
	保育内容(人間関係)	S	1		2		
	保育内容(環境)	S	1		2		
	保育内容(言葉)	S	1		2		
	保育内容(表現)	S	2		2		
	保育課程論	L	2		2		
	乳児保育 I	L	2		2		
	乳児保育 II	S	2		1		
障がい児保育	S	3		2			
保育環境論	L	3		2			
教育内容の分野	国語科研究(書写を含む)	L	2		2		
	社会科研究	L					
	算数科研究	L	2		2		
	理科研究	L					
	生活科研究	L	2		2		
	家庭科研究	L					
	体育科研究	L					
小学校英語	L						
教育方法の分野	特別支援教育	L	2		1		
	教育課程論	L					
	道徳理論と指導法	L					
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	L					
	教育方法・技術論(ICT活用を含む)	L	2		2		
	生徒指導論(進路指導を含む)	L					
	生徒指導論	L					
	幼児教育指導法	L	3		2		
	国語科指導法 I	L					
	国語科指導法 II	L					
	社会科指導法	L					
	算数科指導法 I	L					
	算数科指導法 II	L					
理科指導法	L						
生活科指導法	L						
音楽科指導法	L						

授業科目区分		授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
					必修	選択	自由	
専門科目群	教育方法の分野	図画工作科指導法	L					
		家庭科指導法	L					
		体育科指導法	L					
		外国語(英語)指導法	L					
	展 開 実 用 の 科 分 野	保育実習Ⅰ	P	2~3		4		
		保育実習Ⅱ(保育所)	P	4		2		
		保育実習Ⅲ(施設)	P	4		2		
		保育実習指導Ⅰ	P	2~3		2		
		保育実習指導Ⅱ(保育所)	P	3		1		
		保育実習指導Ⅲ(施設)	P	3~4		1		
		保育・教職実践演習〔幼稚園〕	P	4		2		
		教育実習〔幼・小〕	P	3~4		4		
		教育実習指導〔幼・小〕	P	3~4		1		
		教職実践演習〔幼・小〕	P					
		教育実習〔中学校〕	P					
		教育実習〔高校〕	P					
		教育実習指導〔中・高〕	P					
		教職実践演習〔中・高〕	P					
		養護実習	P					
		養護実習指導	P					
教職実践演習〔養護教諭〕	P							
看護学実習	P							
学校救急処置実習	P							
臨床実習	P							
演習科目群	演習科目	基礎演習Ⅰ	S	1	2		} 必修16単位	
		基礎演習Ⅱ	S	1	2			
		基礎演習Ⅲ	S	2	2			
		基礎演習Ⅳ	S	2	2			
		専門演習Ⅰ	S	3	2			
		専門演習Ⅱ	S	3	2			
		専門演習Ⅲ	S	4	2			
		専門演習Ⅳ	S	4	2			
		保育学特別演習	S	1		1		
		保育フィールド演習	S	3		1		
		教育学特別演習	S					
		教育キャリア演習Ⅰ	S	1		1		
		教育キャリア演習Ⅱ	S	2		1		
		教育キャリア演習Ⅲ	S	2		1		
		教育キャリア演習Ⅳ	S	3		1		
		教育キャリア演習Ⅴ	S	3		1		
教育キャリア演習Ⅵ	S	4		1				
関連科目群	免許・資格	学校経営と学校図書館	L					
		学校図書館メディアの構成	L					
		学習指導と学校図書館	L					
		読書と豊かな人間性	L					
		視聴覚メディア論	L					

開講科目一覧表

《表の見方》 「形態」欄：L = 「講義」 P = 「実験」「実習」「実技」等 S = 「演習」

▼教育学部教育学科（養護教諭専攻）（E222生）

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
人とも教い育き	共生人間論Ⅰ（ブッダと法然）	L	1	2			} 必修4単位
	共生人間論Ⅱ	L	3	2			
	共生人間論実習	P	2		1		
全学共通科目	自然環境と共生	L	1		2		
	生物多様性と共生	L	1		2		
	生命の科学	L	1		2		
	生活と化学	L	1		2		
	栄養・食生活とSDGs	L	1		2		
	地球と災害	L	1		2		
	脱炭素社会	L	2		2		
	森林環境保全	L	3		2		
	持続可能な開発目標(SDGs)と共生	L	1		2		
	暮らしと経済	L	1		2		
	現代社会と生活	L	1		2		
	社会福祉と共生	L	1		2		
	多文化共生	L	2		2		
	市民社会と政治	L	3		2		
	国際事情	L	3		2		
	憲法と基本権	L	1		2		
	社会生活と法	L	2		2		
	日本の文化	L	1		2		
	哲学の基礎	L	1		2		
	倫理学の基礎	L	3		2		
心のメカニズム	L	1		2			
日本の歴史	L	1		2			
世界の歴史	L	1		2			
日本の文学	L	1		2			
外国の文学	L	2		2			
ともいき実践教育	地域社会と共生 A	P	1		1		
	地域社会と共生 B	P	2		2		
	ESDの実践と展開	P	2		2		
	海外文化研修 A	P	1・2・3・4		1		
	海外文化研修 B	P	1・2・3・4		2		
	海外文化研修 C	P	1・2・3・4		4		
	海外文化研修 D	P	1・2・3・4		6		
	日本文化（書道）	P	1・2・3・4		1		
	日本文化（陶芸）	P	1・2・3・4		1		
日本文化（華道）	P	1・2・3・4		1			
日本語	日本語表現法 A（音声）	P	1		2		
	日本語表現法 B（文章）	P	1		2		

は非開講科目です。

授業科目区分	授業科目の名称		形態	開講年次	単位数			備考
					必修	選択	自由	
全 学 共 通 科 目 群	英 語	総合英語 I	L	1	1		必修6単位	
		総合英語 II	L	1	1			
		総合英語 III	L	2	1			
		英会話 I	P	1	1			
		英会話 II	P	1	1			
		英会話 III	P	2	1			
		英語リーディング	P	3		1		
		英語ライティング	P	2		1		
		英語ディスカッション	P	3		1		
	情報	情報リテラシー A	P	1		1		
		情報リテラシー B	P	1		1		
		数学の基礎	L	1		2		
		データサイエンス	L	2		2		
	身体教育	健康と運動	L	1		2		
		スポーツ A	P	1・2・3・4		1		
		スポーツ B	P	1・2・3・4		1		
	外国語コミュニケーション	中国語 I	P	2		1		
		中国語 II	P	2		1		
		韓国語 I	P	2		1		
		韓国語 II	P	2		1		
		フランス語 I	P	2		1		
		フランス語 II	P	2		1		
		ポルトガル語 I	P	2		1		
		ポルトガル語 II	P	2		1		
	キャリア形成	キャリアデザイン I	P	1	2			必修4単位
		キャリアデザイン II	P	1	2			
		キャリアデザイン III	P	2		2		
インターンシップ		P	2		2			
ボランティア活動		P	2		2			
基幹科目	教育原理	L	1		2		選択必修 2単位以上	
	保育原理	L	1		2			
	教職概論	L	1		2			
	教育制度論	L	1		2			
	養護概説	L	1		2			
	保育者論	L						
展開応用科目	こころの理解と援助の分野	L	2		2		4単位以上	
	教育心理学	L						
	保育の心理学	L						
	子ども家庭支援の心理学	L						
	子ども理解	L						
	子どもの理解と援助	S						
	精神保健	L	2		2			
	健康相談活動の理論及び方法	L	2		2			
教育相談	L	3		2				

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
専門科目群	健康教育 健康 教育 保健 の 分野 用	健康教育学	L	1		2	
		学校医学概論	L	1		2	
		生理学	L	1		2	
		解剖学	L	1		2	
		栄養学(食品学を含む)	L	2		2	
		衛生学	L	2		2	
		公衆衛生学(予防医学を含む)	L	1		2	
		公衆衛生学演習	S	2		1	
		微生物学(免疫学を含む)	L	2		2	
		薬理概論	L	2		2	
		看護学	L	1		2	
		母子看護学	L	2		2	
		学校保健	L	1		2	
		養護実務演習	P	2		1	
		保健統計学	L	3		2	
		救急処置法	L	1		2	
		子どもの保健 I	L	2		2	
		子どもの保健	L				
		子どもの健康と安全	S				
		子ども体育 I	S				
	子ども体育 II	S					
	子どもの食と栄養	S	2		2		
	保健科指導法 I	L	2		2		
	保健科指導法 II	L	2		2		
	保健科指導法 III	L	3		2		
	保健科指導法 IV	L	3		2		
	英語教育 の 分野	英語学概論	L				
		英語の構造	L				
		英語文学概論	L				
		英語文学研究	L				
		リスニング	L				
		スピーキング	L				
		ライティング	L				
リーディング I (精読)		P					
リーディング II (多読)		P					
リスニング&リーディング		P					
プレゼンテーション		P					
異文化コミュニケーション		L					
英語圏文化研究		L					
英語科指導法 I	L						
英語科指導法 II	L						
英語科指導法 III	L						
英語科指導法 IV	L						
社会と福祉 の分野	社会福祉論	L					
	子ども家庭福祉	L					
	子ども家庭支援論	L					

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
専門科目群	社会と福祉分野	子育て支援	S				
		社会的養護 I	L				
		社会的養護 II	S				
	表現の分野	音楽 I	S				
		音楽 II	S				
		音楽 III	S				
		音楽 IV	S				
		音楽 V	S				
		音楽 VI	S				
	図画工作	I	S				
		II	S				
	保育の分野	保育内容総論	S				
		保育内容(健康)	S				
		保育内容(人間関係)	S				
		保育内容(環境)	S				
		保育内容(言葉)	S				
		保育内容(表現)	S				
		保育課程論	L				
		乳児保育 I	L				
		乳児保育 II	S				
	障がい児保育	障がい児保育	S				
		保育環境論	L				
	教育内容の分野	国語科研究(書写を含む)	L				
		社会科研究	L				
		算数科研究	L				
		理科研究	L				
		生活科研究	L				
		家庭科研究	L				
		体育科研究	L				
	小学校英語	L					
	教育方法の分野	特別支援教育	L	2		1	
		教育課程論	L	2		2	
		道徳理論と指導法	L	3		2	
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	L	3		2	
		教育方法・技術論(ICT活用を含む)	L	2		2	
		生徒指導論(進路指導を含む)	L	3		2	
		生徒指導論	L	3		2	
		幼児教育指導法	L				
		国語科指導法 I	L				
		国語科指導法 II	L				
		社会科指導法	L				
		算数科指導法 I	L				
算数科指導法 II		L					
理科指導法		L					
生活科指導法		L					
音楽科指導法	L						

授業科目区分		授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
					必修	選択	自由	
専門科目群	教育方法の分野	図画工作科指導法	L					
		家庭科指導法	L					
		体育科指導法	L					
		外国語(英語)指導法	L					
	展 開 実 用 の 科 目 野	保育実習Ⅰ	P					
		保育実習Ⅱ(保育所)	P					
		保育実習Ⅲ(施設)	P					
		保育実習指導Ⅰ	P					
		保育実習指導Ⅱ(保育所)	P					
		保育実習指導Ⅲ(施設)	P					
		保育・教職実践演習〔幼稚園〕	P					
		教育実習〔幼・小〕	P					
		教育実習指導〔幼・小〕	P					
		教職実践演習〔幼・小〕	P					
		教育実習〔中学校〕	P	4		4		
		教育実習〔高校〕	P	4		2		
		教育実習指導〔中・高〕	P	3~4		1		
		教職実践演習〔中・高〕	P	4		2		
		養護実習	P	3		4		
		養護実習指導	P	3		1		
教職実践演習〔養護教諭〕	P	4		2				
看護学実習	P	2		1				
学校救急処置実習	P	1		1				
臨床実習	P	2		2				
演習科目群	演習科目目	基礎演習Ⅰ	S	1	2		必修16単位	
		基礎演習Ⅱ	S	1	2			
		基礎演習Ⅲ	S	2	2			
		基礎演習Ⅳ	S	2	2			
		専門演習Ⅰ	S	3	2			
		専門演習Ⅱ	S	3	2			
		専門演習Ⅲ	S	4	2			
		専門演習Ⅳ	S	4	2			
		保育学特別演習	S					
		保育フィールド演習	S					
		教育学特別演習	S	1	1			
		教育キャリア演習Ⅰ	S	1	1			
		教育キャリア演習Ⅱ	S	2	1			
		教育キャリア演習Ⅲ	S	2	1			
教育キャリア演習Ⅳ	S	3	1					
教育キャリア演習Ⅴ	S	3	1					
教育キャリア演習Ⅵ	S	4	1					
関連科目群	免許・資格	学校経営と学校図書館	L					
		学校図書館メディアの構成	L					
		学習指導と学校図書館	L					
		読書と豊かな人間性	L					
		視聴覚メディア論	L					

卒業要件

東海学園大学スポーツ健康科学部を卒業するためには、4年以上在学し、次の表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

▼スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科（S122生）

科目群	授業科目区分	②各科目区分において卒業に必要な修得単位数	⑥各群において卒業に必要な修得単位数	③卒業に必要な修得単位数
全学共通科目群	ともいき人間教育	必修4単位	25単位以上	合計で108単位以上
	ともいき教養教育			
	ともいき実践教育			
	日本語			
	英語	必修6単位		
	情報			
	身体教育			
	外国語コミュニケーション			
	キャリア形成	必修4単位		124単位以上
専門科目群	導入科目	必修4単位	58単位以上	
	基礎科目	必修4単位を含め6単位以上		
	基幹科目	必修4単位を含め8単位以上		
	展開科目	40単位以上		
演習科目群		必修16単位		

- ① スポーツ健康科学部の教育課程は、全学共通科目群、専門科目群および演習科目群によって構成されています。各科目群の中にはそれぞれ授業科目区分があり、さらにその区分の中に各科目が配置されています。
- ② 卒業するためには、上記の表の②⑥③すべての単位数条件を満たす必要があります。修得が必要な科目の詳細については、開講科目一覧表で確認してください。
- ③ 1年間で履修登録できる単位数の上限は49単位です。

標準修得単位数

各学年終了時まで修得することが望ましい単位数の目標は以下の通りです。

以下のものはあくまで目安ですから、この単位数に満たなくても次の学年に進むことはできます。ただし、第4学年終了時までには124単位以上が必要です。無理なく卒業できるように、各学年終了時にこの程度の単位数は修得するようにしてください。

第1学年終了時：35単位以上

第2学年終了時（2年間の合計）：70単位以上

第3学年終了時（3年間の合計）：100単位以上

第4学年終了時（4年間の合計）：最低124単位以上

*上記の数値は各学年終了時における標準修得単位数です。この数値以上の単位修得をめざしてください。

*卒業には、合計の単位数だけではなく、必修科目が修得されていること、各科目区分ごとに決められた単位数が満たされていることが条件になります。

(注) 就職活動等で必要な卒業見込証明書は、3学年終了時に90単位以上修得している学生に限り発行されます。

開講科目一覧表

《表の見方》 「形態」欄：L＝「講義」 P＝「実験」「実習」「実技」等 S＝「演習」
 「免許・資格」欄：○＝必修科目 △＝選択必修科目

▼スポーツ健康科学科 (S122生)

※免許・資格取得に必要な科目以外に、それぞれの免許・資格に必要な履修要件がありますので、必ず免許・資格のページを確認してください。

区 授 業 科 目 分 目	授業科目の名称	形 態	開 講 年 次	単位数			免許・資格										備 考	
				必 修	選 択	自 由	保 中 高 体 育 種	障 が い い 指 導 員	ア シ ス タ ン ト	コ ー チ ン グ	(公 認 水 泳 コ ー チ)	マ ネ ジ ャ ー	実 践 指 導 者	健 康 運 動	健 康 運 動 指 導 士	*レ ク リ エ ー シ ョ ン イ ン ス ト ラ ク ター		指 導 者
人 間 教 育	共生人間論 I (ブッダと法然)	L	1	2														} 必修4単位
	共生人間論 II	L	3	2														
全 学 も と 共 通 科 目	共生人間論実習	P	2	1														
	自然環境と共生	L	1	2														
	生物多様性と共生	L	1	2														
	生命の科学	L	1	2														
	生活と化学	L	1	2														
	栄養・食生活とSDGs	L	1	2														
	地球と災害	L	1	2														
	脱炭素社会	L	2	2														
	森林環境保全	L	3	2														
	持続可能な開発目標(SDGs)と共生	L	1	2														
	暮らしと経済	L	1	2														
	現代社会と生活	L	1	2														
	社会福祉と共生	L	1	2														
	多文化共生	L	2	2														
	市民社会と政治	L	3	2														
	国際事情	L	3	2														
	憲法と基本権	L	1	2				○										
	社会生活と法	L	2	2														
	日本の文化	L	1	2														
哲学の基礎	L	1	2															
倫理学の基礎	L	3	2															
心のメカニズム	L	1	2															
日本の歴史	L	1	2															
世界の歴史	L	1	2															
日本の文学	L	1	2															
外国の文学	L	2	2															
と も い き 実 践 教 育	地域社会と共生 A	P	1	1														
	地域社会と共生 B	P	2	2														
	ESDの実践と展開	P	2	2														
	海外文化研修 A	P	1	1														
	海外文化研修 B	P	1	2														
	海外文化研修 C	P	1	4														
	海外文化研修 D	P	1	6														
	日本文化(書道)	P	4	1														
	日本文化(陶芸)	P	3	1														
日本文化(華道)	P	4	1															

区 授 業 科 目	授業科目の名称	形 態	開 講 年 次	単位数			免許・資格								備考				
				必 修	選 択	自 由	中 高 体 育	保 健 指 導 員	障 が い 指 導 者	ア ス チ ン ト	コ ー チ ン グ (公 認 水 泳 コ ー チ)	マ ネ ジ ャ ー (ア シ ス タ ン ト)	実 践 指 導 者	健 康 運 動 指 導 士		健 康 運 動 指 導 士	* レ ク リ エ ー シ ョ ン ・ イ ン ス ト ラ ク タ ー	指 導 者	ト レ ー ニ ン グ
日 本 語	日本語表現法 A (音声)	P	1		2														
	日本語表現法 B (文章)	P	1		2														
全 学 語	総合英語 I	L	1	1			△											} 必修6単位	
	総合英語 II	L	1	1			△												
	総合英語 III	L	2	1															
	英会話 I	P	1	1			△												
	英会話 II	P	1	1			△												
	英会話 III	P	2	1															
	英語リーディング	P	3		1														
	英語ライティング	P	2		1														
英語ディスカッション	P	3		1															
共 通 情 報	情報リテラシー A	P	1		1			○											
	情報リテラシー B	P	1		1			○											
	数学の基礎	L	1		2														
	データサイエンス	L	2		2														
	プログラミング	L	2		2														
身 体 教 育	健康と運動	L	1		2			○											
	スポーツ A	P	1		1			△											
	スポーツ B	P	1		1			△											
	スポーツ C	P	1		1			△											
外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	中国語 I	P	2		1			△											
	中国語 II	P	2		1			△											
	韓国語 I	P	2		1														
	韓国語 II	P	2		1														
	フランス語 I	P	2		1														
	フランス語 II	P	2		1														
	ポルトガル語 I	P	2		1														
	ポルトガル語 II	P	2		1														
群 キ ャ リ ア 形 成	キャリアデザイン I	P	1	2														} 必修4単位	
	キャリアデザイン II	P	1	2															
	キャリアデザイン III	P	2		2														
	インターンシップ	P	2		2														
	ボランティア活動	P	2		2														

区 授 業 科 目 分	授業科目の名称	形 態	開 講 年 次	単位数			免許・資格							備 考				
				必 修	選 択	自 由	中 高 体 育	保 健 指 導 員	ス ポ ー ツ 指 導 者	ア シ ス タ ン ト	コ ー チ ン グ	(公 認 水 泳 コ ー チ)	マ ネ ジ ャ ー (ア シ ス タ ン ト)		実 践 指 導 者	健 康 運 動	健 康 運 動 指 導 士	*レ ク リ エ ー シ ョ ン ・ イ ン ス ト ラ ク タ ー
導 入 科 目	ス ポ ー ツ 科 学 概 論	L	1	2														} 必修4単位
	健 康 科 学 概 論	L	1	2					○								○	
基 礎 科 目	ス ポ ー ツ 医 学	L	1		2													} 必修4単位 を含め 6単位以上
	生 理 学	L	1	2			○											
	衛 生 学	L	2		2			○										
	公 衆 衛 生 学	L	1		2			○										
基 幹 科 目	機 能 解 剖 学	L	1	2					○			○	○				○	} 必修4単位 を含め 8単位以上
	バ イ オ メ カ ニ ク ス	L	1	2			○		○			○	○				○	
	ト レ ー ニ ン グ 科 学	L	2		2				○			○	○				○	
	運 動 生 理 学	L	2	2			○		○			○	○				○	
	健 康 管 理 論	L	2		2							○	○					
	体 育 原 理	L	2		2			○										
	コ ー チ ン グ 科 学	L	2		2					○							○	
ス ポ ー ツ 心 理 学	L	1		2			△		○								○	
ス ポ ー ツ 社 会 学	L	2		2			△		○									
科 展 開 群 科 目	小 児 保 健	L	3		2			○										} 展開科目 40単位以上
	精 神 保 健	L	2		2			○										
	学 校 保 健 (学 校 安 全 を 含 む)	L	2		2			○										
	救 急 処 置 法	L	3		2			○	○	○			○	○			○	
	健 康 心 理 学	L	3		2								○	○				
	ス ポ ー ツ 栄 養 学	L	2		2								○	○			○	
	健 康 栄 養 食 品 学	L	3		2													
	発 育 ・ 発 達 老 化 論	L	3		2					○			○					
	生 活 習 慣 病 と 運 動	L	3		2									○				
	体 力 測 定 ・ 評 価	L	2		2								○	○			○	
	運 動 処 方 の 理 論 と 実 習 I	L	2		2									○			○	
	運 動 処 方 の 理 論 と 実 習 II	L	3		2									○				
	ス ポ ー ツ 障 害	L	3		2					○			○	○			○	
	ト レ ー ニ ン グ 実 習 I	P	2		1								○	○			○	
	ト レ ー ニ ン グ 実 習 II	P	3		1									○			○	
	野 外 活 動 (キ ャ ン プ)	P	3		1			△										
	体 育 経 営 管 理 学	L	3		2			△										
ス ポ ー ツ 政 策 論	L	4		2														
ス ポ ー ツ マ ネ ジ メ ン ト 論	L	4		2							○							
ス ポ ー ツ マ ー ケ テ ィ ン グ 論	L	4		2														

区 授 業 科 目	授業科目の名称	形 態	開 講 年 次	単位数			免許・資格							備考			
				必 修	選 択	自 由	中 高 体 育	障 が い ス ポ ー ツ 指 導 員	ア シ ス タ ン ト	コ ー チ ン グ (公 認 水 泳 コ ー チ)	マ ネ ジ ャ ー (ア シ ス タ ン ト)	実 践 指 導 者	健 康 運 動 指 導 士		健康運動指導士	インストラクター	*レクリエーション・トレーナー
専 門 開 科 目 群	障がい者スポーツ論	L	3	2			○										展開科目 40単位以上
	レクリエーション論	L	2	2									○				
	レクリエーション実技Ⅰ	P	2	1									○				
	レクリエーション実技Ⅱ	P	2	1									○				
	体育実技(陸上競技Ⅰ)	P	1	1		○											
	体育実技(陸上競技Ⅱ)	P	1	1		○											
	体育実技(球技A:ゴール型)	P	1	1		○											
	体育実技(球技B:ネット型/ベースボール型)	P	1	1		○											
	野外活動(ウインタースポーツ)	P	2	1		△											
	体育実技(水泳)	P	3	1		○											
	体育実技(武道)	P	3	1		○											
	体育実技(ダンス)	P	3	1		○											
	体育実技(体つくり運動・器械運動)	P	3	2		○											
	スポーツ実習(陸上)	P	1	1													
	スポーツ実習(バスケットボール)	P	1	1													
	スポーツ実習(バレーボール)	P	1	1													
	スポーツ実習(サッカー)	P	1	1													
	スポーツ実習(ハンドボール)	P	1	1													
	スポーツ実習(体操)	P	2	1													
	スポーツ実習(水泳)	P	2	1				○		○	○						
	スポーツ実習(水中運動)	P	3	1						○	○						
	スポーツ実習(エアロビクスダンス)	P	3	1						○	○						
	スポーツ実習(マリンスポーツ)	P	2	1													
	スポーツ統計学	P	3	2													
	運動生理学実験	P	2	1													
	バイオメカニクス実験	P	2	1													
	スポーツ心理学実験	P	2	1													
	コーチング科学実習	P	3	1													
	コンディショニング論	P	3	2											○		
	アスレチックトレーニング	P	3	1													
スポーツ指導論	L	2	2				○								○		
トップアスリート論	L	2	2														
生涯スポーツ論	L	3	2														
地域スポーツ論	L	3	2						○								
サッカー審判法	P	2	1														

区 授 業 科 目	授業科目の名称	形 態	開 講 年 次	単位数			免許・資格							備 考				
				必 修	選 択	自 由	保 中 健 高 一 体 育 種	ス ポ ー ツ 指 導 員	障 が い 者	ア シ ス タ ン ト	コ ー チ ン グ	(公 認 水 泳 コ ー チ)	(マ ネ ジ ャ ー)		実 践 指 導 者	健 康 運 動 指 導 士	イ ン ス ト ラ ク タ ー	*ク リ エ ィ ン シ ョ ン
専 門 開 科 目 群	ス ポ ー ツ 審 判 法	P	4	1														展 開 科 目 40単 位 以 上
	水 泳 C 級 I	P	3	1					○									
	水 泳 C 級 II	P	3	1					○									
	イ ン タ ー ン シ ッ プ A	P	3	2										○	△			
	イ ン タ ー ン シ ッ プ B	P	3	1											△			
	保 健 体 育 科 指 導 法 (陸上競技)	P	3	1		○												
	保 健 体 育 科 指 導 法 (体づくり運動・器械運動)	P	3	1		○												
	保 健 体 育 科 指 導 法 (球 技)	P	3	1		○												
	保 健 体 育 科 指 導 法 (武 道)	P	3	1		○												
	保 健 体 育 科 指 導 法 (水 泳)	P	3	1		○												
	保 健 体 育 科 指 導 法 (ダンス)	P	3	1		○												
	保 健 体 育 科 指 導 法 (中学校)	L	3	2		○												
	保 健 体 育 科 指 導 法 (高 校)	L	3	2		○												
	体 育 史	L	2	2		△												
	教 育 原 理	L	1	2		○												
	教 職 概 論	L	1	2		○												
	教 育 制 度 論	L	2	2		○												
	教 育 心 理 学	L	2	2		○												
	特 別 支 援 教 育	L	2	1		○												
	教 育 課 程 論	L	2	2		○												
	道 徳 理 論 と 指 導 法	L	3	2		○												
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	L	2	2		○												
	教育方法・技術論(ICT活用を含む)	L	2	2		○												
	生徒指導論(進路指導を含む)	L	3	2		○												
	教 育 相 談	L	2	2		○												
	教 育 実 習 指 導〔中・高〕	P	3~4	1		○												
	教 育 実 習〔中学校〕	P	4	4		中○										△		
	教 育 実 習〔高 校〕	P	4	2		高○										△		
	教 職 実 践 演 習〔中・高〕	P	4	2		○												
	教 職 演 習 I	P	2	1														
	教 職 演 習 II	P	2	1														
	教 職 演 習 III	P	3	1														
教 職 演 習 IV	P	3	1															
教 職 演 習 V	P	4	1															

区 授 業 科 目 分 目	授業科目の名称	形 態	開 講 年 次	単位数			免許・資格							備考				
				必 修	選 択	自 由	保 中 健 体	高 一 種 育	ス ポ ー ツ 指 導 員	障 が い 者	ア シ ス タ ン ト	コ ー チ ン グ	(公 認 水 泳 コ ー チ)		(ア シ ス タ ン ト マ ネ ジ ャ ー)	実 践 指 導 者	健 康 運 動	健 康 運 動 指 導 士
専 門 科 目 群	ス ポ ー ツ コ ー チ 演 習 I	P	2	1														展 開 科 目 40 単 位 以 上
	ス ポ ー ツ コ ー チ 演 習 II	P	2	1														
	ス ポ ー ツ コ ー チ 演 習 III	P	3	1														
	ス ポ ー ツ コ ー チ 演 習 IV	P	3	1														
	健 康 ト レ ー ナ ー 演 習 I	P	1	1														
	健 康 ト レ ー ナ ー 演 習 II	P	2	1														
	健 康 ト レ ー ナ ー 演 習 III	P	2	1														
	健 康 ト レ ー ナ ー 演 習 IV	P	3	1														
	健 康 ト レ ー ナ ー 演 習 V	P	3	1														
	健 康 ト レ ー ナ ー 演 習 VI	P	4	1														
演 習 科 目 群	基 礎 演 習 I	S	1	2														} 必 修 16 単 位
	基 礎 演 習 II	S	1	2														
	専 門 基 礎 演 習 I	S	2	2														
	専 門 基 礎 演 習 II	S	2	2														
	専 門 演 習 I	S	3	2														
	専 門 演 習 II	S	3	2														
	専 門 演 習 III	S	4	2														
	専 門 演 習 IV	S	4	2														

* 現場実習で「事業参加」の領域を修得すること。

健康栄養学部について

高齢社会を迎えた我が国では、生活習慣病の予防対策が急務です。健康栄養学部では、人体の構造と機能ならびに疾病の成り立ちなどの科目に立脚した臨床に強い人材や、ライフステージ別の健康・栄養問題を捉え、生涯をとおした健康づくりに貢献できる人材を養成します。さらに、個々人のライフスタイル、とりわけ食生活・栄養の面から生活習慣病予防を実現し、医療スタッフになりうる資質をもち、給食経営管理ができる管理栄養士を養成します。

卒業要件

東海学園大学健康栄養学部を卒業するためには、4年以上在学し、次の表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

▼健康栄養学部管理栄養学科（N122生）

科目群	授業科目区分	②各科目区分において卒業に必要な修得単位数	①各群において卒業に必要な修得単位数	③卒業に必要な修得単位数
全学 共通 科目 群	ともいき人間教育	必修4単位	} 25単位以上	} 132単位以上
	ともいき教養教育			
	ともいき実践教育			
	日 本 語			
	英 語	必修4単位		
	情 報			
	身 体 教 育			
	外国語コミュニケーション			
キ ャ リ ア 形 成	必修4単位			
専 門 科 目 群	導 入 科 目	必修2単位	} 89単位以上	
	専 門 基 礎 分 野 科 目	必修38単位		
	専 門 分 野 科 目	必修45単位		
	展 開 科 目	必修2単位を含め4単位以上		
演 習 科 目 群	必修18単位			
免許・資格関連科目群	※卒業要件に含まれません。			

- 健康栄養学部の教育課程は、全学共通科目群、専門科目群および演習科目群によって構成されています。各科目群の中にはそれぞれ授業科目区分があり、さらにその区分の中に各科目が配置されています。
- 卒業するためには、上の表の①②③すべての単位数条件を満たす必要があります。修得が必要な科目の詳細については、開講科目一覧表で確認してください。
- 「免許・資格関連科目群」の単位は、卒業要件に含まれません。

- ④ 1年間で履修登録できる単位数の上限は49単位です（「免許・資格関連科目群」の科目は除く）。

標準修得単位数

各年次終了時までには修得することが望ましい単位数の目標は以下の通りです。

以下のものはあくまで目安ですから、この単位数に満たなくても次の年次に進むことはできます。ただし、4年次終了時までには132単位以上が必要です。無理なく卒業できるように、各年次終了時にこの程度の単位数は修得するようにしてください。

1年次終了時：40単位以上

2年次終了時（2年間の合計）：80単位以上

3年次終了時（3年間の合計）：110単位以上

4年次終了時（4年間の合計）：最低132単位以上

*上記の数値は各年次終了時における標準修得単位数です。この数値以上の単位修得をめざしてください。

*上記には免許・資格関連科目群の単位数は含まれません。

*卒業には、合計の単位数だけではなく、必修科目が修得されていること、各科目区分ごとに決められた単位数が満たされていることが条件になります。

(注) 就職活動等で必要な卒業見込証明書は、3年次終了時に100単位以上修得している学生に限り発行されます。

開講科目一覧表

《表の見方》 「形態」欄：L = 「講義」 P = 「実験」「実習」「実技」等 S = 「演習」

▼健康栄養学部管理栄養学科（N122生）

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
人とも教い育き	共生人間論Ⅰ(ブッダと法然)	L	1	2			} 必修4単位
	共生人間論Ⅱ	L	3	2			
	共生人間論実習	P	2		1		
全学共通科目	自然環境と共生	L	1		2		
	生物多様性と共生	L	1		2		
	生命の科学	L	1		2		
	生活と化学	L	1		2		
	栄養・食生活とSDGs	L	1		2		
	地球と災害	L	1		2		
	脱炭素社会	L	2		2		
	森林環境保全	L	3		2		
	持続可能な開発目標(SDGs)と共生	L	1		2		
	暮らしと経済	L	1		2		
	現代社会と生活	L	1		2		
	社会福祉と共生	L	1		2		
	多文化共生	L	2		2		
	市民社会と政治	L	3		2		
	国際事情	L	3		2		
	憲法と基本権	L	1		2		
	社会生活と法	L	2		2		
	日本の文化	L	1		2		
	哲学の基礎	L	1		2		
	倫理学の基礎	L	3		2		
心のメカニズム	L	1		2			
日本の歴史	L	1		2			
世界の歴史	L	1		2			
日本の文学	L	1		2			
外国の文学	L	2		2			
ともいき実践教育	地域社会と共生 A	P	1		1		
	地域社会と共生 B	P	2		2		
	ESDの実践と展開	P	2		2		
	海外文化研修 A	P	1・2・3・4		1		
	海外文化研修 B	P	1・2・3・4		2		
	海外文化研修 C	P	1・2・3・4		4		
	海外文化研修 D	P	1・2・3・4		6		
	日本文化(書道)	P	1・2・3・4		1		
	日本文化(陶芸)	P	1・2・3・4		1		
日本文化(華道)	P	1・2・3・4		1			
日本語	日本語表現法 A(音声)	P	1		2		
	日本語表現法 B(文章)	P	1		2		

は非開講科目です。

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
全 学 共 通 科 目 群	英 語	総合英 語 I	L	1	1		必修4単位
		総合英 語 II	L	1	1		
		総合英 語 III	L				
		英 会 話 I	P	1	1		
		英 会 話 II	P	1	1		
		英 会 話 III	P				
		英語リーディング	P				
		英語ライティング	P				
	英語ディスカッション	P					
	情 報	情報リテラシー A	P	1		1	
		情報リテラシー B	P	1		1	
		数学の基礎	L	1		2	
		データサイエンス	L	2		2	
	身 体 教 育	健康と運動	L	1		2	
		スポーツ A	P	1・2・3・4		1	
		スポーツ B	P	1・2・3・4		1	
		スポーツ C	P	1・2・3・4		1	
	外 国 語 コ ミュ ニ ケー ション	中国語 I	P				
		中国語 II	P				
		韓国語 I	P				
		韓国語 II	P				
		フランス語 I	P				
		フランス語 II	P				
		ポルトガル語 I	P				
		ポルトガル語 II	P				
	キ ャ リ ア 形 成	キャリアデザイン I	P	1	2		必修4単位
		キャリアデザイン II	P	1	2		
		キャリアデザイン III	P	2		2	
インターンシップ		P	2		2		
ボランティア活動		P	2		2		
導入科目	健康と栄養	L	1	2		必修2単位	
専 門 科 目 群	専 門 基 礎 分 野 科 目	健康科学概論	L	2	2		必修38単位
		公衆衛生学	L	3	2		
		社会・健康福祉論	L	4	2		
		解剖生理学 I	L	1	2		
		解剖生理学 II	L	2	2		
		解剖生理学実験	P	2	1		
		解剖生理学実習	P	4	1		
		生化学 I	L	1	2		
		生化学 II	L	1	2		
		生化学実験	P	1	1		
		臨床検査実習	P	2	1		
		微生物学	L	2	2		
病理学	L	2	2				

授業科目区分	授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考		
				必修	選択	自由			
専門 科目 群	専門基礎分野科目	病理学演習	S	4	2				
		食品学総論	L	1	2				
		食品学各論	L	4	2				
		食品学実験Ⅰ	P	1	1				
		食品学実験Ⅱ	P	2	1				
		調理学	L	1	2				
		調理学実習Ⅰ	P	1	1				
		調理学実習Ⅱ	P	1	1				
		調理学実験	P	2	1				
		食品衛生学	L	2	2				
		食品衛生学実験	P	2	1				
	専門 科目 群	専門	基礎栄養学	L	1	2		必修45単位	
			基礎栄養学実習	P	2	1			
			応用栄養学総論	L	2	2			
			母子栄養学	L	2	2			
			中高年栄養学	L	3	2			
			応用栄養学実習Ⅰ	P	2	1			
			応用栄養学実習Ⅱ	P	3	1			
			栄養教育原論	L	1	2			
			栄養教育各論	L	2	2			
			栄養教育実習	P	3	1			
		分野 科目	栄養カウンセリング演習	S	3	2			
			臨床栄養学Ⅰ(疾病・医療)	L	1	2			
			臨床栄養学Ⅱ(病態・栄養管理)	L	1	2			
			臨床栄養学Ⅲ(高齢者・母子)	L	2	2			
			栄養治療学	L	3	2			
			臨床栄養学実習Ⅰ	P	2	1			
			臨床栄養学実習Ⅱ	P	2	1			
			公衆栄養学	L	2	2			
			栄養情報演習	S	3	2			
			公衆栄養学実習	P	3	1			
	目 群	目	給食経営管理論	L	2	2			
給食計画論			L	2	2				
給食マネジメント実習Ⅰ			P	2	1				
給食マネジメント実習Ⅱ			P	2	1				
栄養総合演習Ⅰ			S	3	1				
栄養総合演習Ⅱ			S	3	1				
給食経営管理臨地実習			P	3	1				
臨床栄養・公衆栄養臨地実習			P	3	3				
展開 科目			目	地域保健活動演習	S	3		2	必修2単位を含め 4単位以上
				健康食品学	L	4		2	
	食品開発論	L		4		2			
	スポーツ栄養実践演習Ⅰ	S		1		1			
	スポーツ栄養実践演習Ⅱ	S		2		1			
運動生理学	L	3		2					

授業科目区分		授業科目の名称	形態	開講年次	単位数			備考
					必修	選択	自由	
専門科目群	展開科目	スポーツ栄養学	L	3		2		
		スポーツ栄養学実習	P	3		1		
		臨床医薬概論	L	4	2			
		食育指導論Ⅰ	L	2		2		
		食育指導論Ⅱ	L	3		2		
演習科目群	演習科目	基礎演習Ⅰ	S	1	2			必修18単位
		基礎演習Ⅱ	S	1	2			
		栄養科学演習Ⅰ	S	2	2			
		栄養科学演習Ⅱ	S	2	2			
		専門演習Ⅰ	S	3	2			
		専門演習Ⅱ	S	3	2			
		専門演習Ⅲ	S	4	2			
		専門演習Ⅳ	S	4	2			
		栄養総合演習Ⅲ	L	4	1			
栄養総合演習Ⅳ	L	4	1					
免許・資格関連科目群		教育原理	L	1			2	
		教職概論	L	1			2	
		教育制度論	L	1			2	
		教育心理学	L	2			2	
		特別支援教育	L	2			1	
		教育課程論	L	2			2	
		道徳理論と指導法	L	3			2	
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	L	2			2	
		教育方法・技術論(ICT活用を含む)	L	2			2	
		生徒指導論	L	3			2	
		教育相談	L	2			2	
		学校栄養教育実習指導	P	3~4			1	
		学校栄養教育実習	P	4			1	
		教職実践演習〔栄養教諭〕	P	4			2	
		スポーツ医科学演習	S	2			2	
		健康スポーツ科学演習	S	3			2	
		スポーツ実習(陸上)	P	1			1	
		スポーツ実習(エアロビクス)	P	1			1	
		スポーツ実習(水泳・アクアビクス)	P	2			1	
		スポーツ実習(ウエイトトレーニング)	P	1			1	
管理栄養士特講Ⅰ	L	3			2			
管理栄養士特講Ⅱ	L	3			2			
基礎化学Ⅰ	L	1			2			
基礎化学Ⅱ	L	1			2			

(趣旨)

第1条 この規程は、東海学園大学学則（以下「学則」という。）第4条の2の規定に基づき、東海学園大学ともいき教養教育機構（以下、「機構」という。）の組織、構成及び運営について必要な事項を定める。

(目的)

第2条 機構は、本学の学則に掲げる「勤儉誠実」の信念と「共生」の教育理念の実現をめざし、「ともいき人間教育」「ともいき教養教育」「ともいき実践教育」を柱とする全学的な共通教育（以下、「全学共通教育」という。）において、その具現化を図ることを目的とする。

2 機構は前項を推進するため、「学部教授会」「全学教育委員会」及び「共生文化研究所」と連携し、目的達成をめざすものとする。

(組織)

第3条 東海学園大学教授会規程第2条の規定に基づき、ともいき教養教育機構教授会（以下「機構教授会」という。）を置く。

(構成)

第4条 機構は、次の教職員をもって組織する。

- (1) 機構長
- (2) 副機構長
- (3) 共生文化研究所長
- (4) 学長が指名する教授、准教授、講師及び助教

(機構長)

第5条 機構長は、本学の専任教授から学長が任命する。

- 2 機構長は、機構を代表し、業務を統括する。
- 3 機構長の任期は2年とする。ただし再任を妨げないが、原則として通算4年を超えることができない。
- 4 機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副機構長)

第6条 副機構長は、本学の専任教授または専任准教授から、学長が任命する。

- 2 副機構長は、機構長を補佐し、機構長に事故があるときはその職務を代理し、機構長が欠けたときはその職務を行う。
- 3 副機構長の任期は2年とする。ただし再任を妨げないが、原則として通算4年を超えることができない。
- 4 副機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長及び招集)

第7条 機構長は、機構教授会を招集し、議長となる。

- 2 定例機構教授会は原則として月1回開催する。
- 3 臨時機構教授会は、必要に応じて随時開催する。なお、機構教授会構成員総数の3分の2以上の者から要求があった場合、機構長は機構教授会を招集しなければならない。

(審議事項)

第8条 機構教授会は、機構長が招集し次の各号に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 全学共通教育に係わる教育課程の編成に関する事項
- (2) 全学共通教育の目的を具現化するための企画・立案及び実施に関する事項
- (3) 全学共通科目の担当者に関する事項
- (4) 全学共通教育に係わる学生の学修評価に関する事項
- (5) 教員の教育研究業績の審査等に関する事項
- (6) その他、全学共通教育の推進及び実施に必要な事項

2 機構教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び機構長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長・機構長の求めに応じ、意見を述べることができる。

(定足数及び議決)

第9条 機構教授会の定足数は、構成員の3分の2以上とし、議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

- 2 休職中の者その他長期にわたって出席できない者は、前項の定足数から除く。
- 3 議長は、機構教授会構成員に直接の利害関係のある事項について審議するときは、当該構成員の退席を求めることができる。

(人事)

第10条 教員の教育研究業績の審査等に関する人事は、「東海学園大学専任教員採用規程」、「東海学園大学教員昇任規程」及び「東海学園大学教員採用・昇任内規」による。

(非構成員の出席)

第11条 議長は、必要があるときは、構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

(守秘義務)

第12条 人事に関する事項及び学生の個人情報に関する事項の審議内容については、秘密をもらしてはならない。なお、正当な理由がある場合は、この限りではない。

(改廃)

第13条 この規程の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、令和2年6月1日から施行する。それに伴い「東海学園大学ともいき教養教育機構の組織に関する規程」を廃止し、他の規程等に定める「全学共通教育機構」は「ともいき教養教育機構」と読み替えるものとする。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から改正施行する。

(趣旨)

第1条 この規程は、東海学園大学学則（以下「学則」という。）第4条の2の規定に基づき、東海学園大学ともいき教養教育機構（以下、「機構」という。）の組織、構成及び運営について必要な事項を定める。

(目的)

第2条 機構は、本学の学則に掲げる「勤儉誠実」の信念と「共生」の教育理念の実現をめざし、「ともいき人間教育」「ともいき教養教育」「ともいき実践教育」を柱とする全学的な共通教育（以下、「全学共通教育」という。）において、その具現化を図ることを目的とする。

2 機構は前項を推進するため、「学部教授会」「全学教育委員会」及び「共生文化研究所」と連携し、目的達成をめざすものとする。

(組織)

第3条 東海学園大学教授会規程第2条の規定に基づき、ともいき教養教育機構教授会（以下「機構教授会」という。）を置く。

(構成)

第4条 機構は、次の教職員をもって組織する。

- (1) 機構長
- (2) 副機構長
- (3) 共生文化研究所長
- (4) 学長が指名する教授、准教授、講師及び助教

(機構長)

第5条 機構長は、本学の専任教授から学長が任命する。

- 2 機構長は、機構を代表し、業務を統括する。
- 3 機構長の任期は2年とする。ただし再任を妨げないが、原則として通算4年を超えることができない。
- 4 機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副機構長)

第6条 副機構長は、本学の専任教授または専任准教授から、学長が任命する。

- 2 副機構長は、機構長を補佐し、機構長に事故があるときはその職務を代理し、機構長が欠けたときはその職務を行う。
- 3 副機構長の任期は2年とする。ただし再任を妨げないが、原則として通算4年を超えることができない。
- 4 副機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長及び招集)

第7条 機構長は、機構教授会を招集し、議長となる。

- 2 定例機構教授会は原則として月1回開催する。
- 3 臨時機構教授会は、必要に応じて随時開催する。なお、機構教授会構成員総数の3分の2以上の者から要求があった場合、機構長は機構教授会を招集しなければならない。

(審議事項)

第8条 機構教授会は、機構長が招集し次の各号に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 全学共通教育に係わる教育課程の編成に関する事項
- (2) 全学共通教育の目的を具現化するための企画・立案及び実施に関する事項
- (3) 全学共通科目の担当者に関する事項
- (4) 全学共通教育に係わる学生の学修評価に関する事項
- (5) 教員の教育研究業績の審査等に関する事項
- (6) その他、全学共通教育の推進及び実施に必要な事項

2 機構教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び機構長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長・機構長の求めに応じ、意見を述べることができる。

(定足数及び議決)

第9条 機構教授会の定足数は、構成員の3分の2以上とし、議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

- 2 休職中の者その他長期にわたって出席できない者は、前項の定足数から除く。
- 3 議長は、機構教授会構成員に直接の利害関係のある事項について審議するときは、当該構成員の退席を求めることができる。

(人事)

第10条 教員の教育研究業績の審査等に関する人事は、「東海学園大学専任教員採用規程」、「東海学園大学教員昇任規程」及び「東海学園大学教員採用・昇任内規」による。

(非構成員の出席)

第11条 議長は、必要があるときは、構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

(守秘義務)

第12条 人事に関する事項及び学生の個人情報に関する事項の審議内容については、秘密をもらしてはならない。なお、正当な理由がある場合は、この限りではない。

(改廃)

第13条 この規程の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、令和2年6月1日から施行する。それに伴い「東海学園大学ともいき教養教育機構の組織に関する規程」を廃止し、他の規程等に定める「全学共通教育機構」は「ともいき教養教育機構」と読み替えるものとする。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から改正施行する。

大学等名	東海学園大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和6年度

取組概要

プログラムの目的

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切に理解し活用するための基礎的な能力を身に付け、今後の新たな社会（Society5.0）実現に必要とされる人材を育成することを目的とします。

身に付けられる能力

- ・なぜ、数理・データサイエンス・AIを学ぶのか、理解できる。
- ・社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのか、理解できる。
- ・AIの得意なところ、苦手なところを理解し、人間中心の適切な判断ができる。
- ・社会の実データ、実課題を適切に読み解き、判断できる。

など、これらを日常の生活、仕事等の現場に活かし、使いこなすことができる基礎的素養を身に付けることができます。

開講されている科目の構成

全学共通科目「データサイエンス」2単位

修了要件

「データサイエンス」2単位を修得すること。

実施体制

プログラムの運営責任者	ともいき教養教育機構長
プログラムを改善・進化させるための体制	ともいき教養教育機構
プログラムの自己点検・評価の体制	